



仿課

司權法省

藏版

新編  
裁判所

埃及瀆律書全

明治十一年一月印行





埃及法律書草案緒言

此埃及法律書草案ハ余カ嚮ニ職ヲ太政官ニ奉スルノ日官命ニ因リ繙譯スル所ニ係リ當時埃及ニ於テ編輯シタル未定ノ稿本ナリ而シテ爾後該國ニ於テ更ニ修正ヲ加ヘ以テ其成典ト爲シ之ヲ國內ニ公布セシハ余カ此草案ヲ譯セシ後ニ在レハ此書ヲ現下該國ノ實際ニ施行スル法律書ニ比スレハ稍小異ナキ能ハス讀者宜諒焉

明治十年十月司法大書記官箕作麟祥記

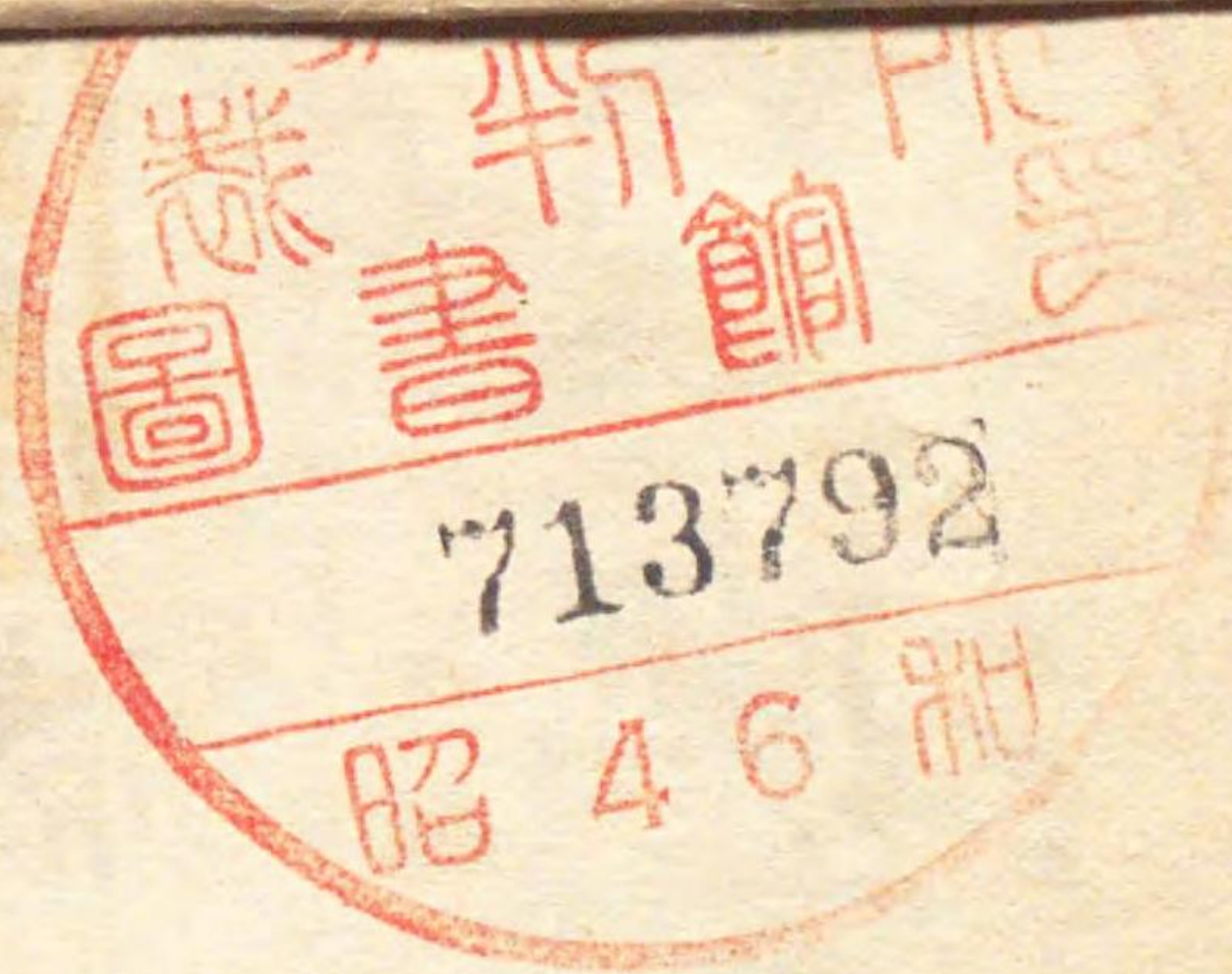




埃及法律書草案緒言

此埃及法律書草案ハ余カ嚮ニ職ヲ太政官ニ奉スルノ日官命ニ因リ繙譯スル所ニ係リ當時埃及ニ於テ編輯シタル未定ノ稿本ナリ而シテ爾後該國ニ於テ更ニ修正ヲ加ヘ以テ其成典ト爲シ之ヲ國內ニ公布セシハ余カ此草案ヲ譯セシ後ニ在レハ此書ヲ現下該國ノ實際ニ施行スル法律書ニ比スレハ稍小異ナキ能ハス讀者宜諒焉

明治十年十月司法大書記官箕作麟祥記





埃及法律書

立合裁判司法職制規則目錄

○第一編自第一條至第三十九條 民法及商法事件ニ於ケル裁判ノ權

○第一章 初告裁判所及ヒ控訴裁判所

○第一款 設立及編成ノ方 一丁

○第二款 裁判所ノ管轄 四丁

○第三款 裁判席ノ事 六丁

○第四款 裁判言渡ヲ執行フ事 七丁

○第五款 裁判官ノ職ヲ動カス可カラサル事、裁判官ノ昇級兼

職ノ禁、裁判所取締ノ事 八丁

○第二章 檢官局

○第六款 別段ノ規則及ヒ假リノ規則 一一丁

一 ○第二編自第三十八條至犯罪ヲ訴ヘラレシ外國人ニ付キ刑法事件ニ於



ケル裁判ノ權

○第一章 註誤裁判所、輕罪裁判所、重罪裁判所

○第一款 裁判所ノ編成 一七丁

○第二款 裁判所ノ管轄 一八丁

○第二章 外國人ノ告訴セラレタル註誤及ヒ輕重罪ヲ裁判スル

ニ付キ治罪法ヲ更改スル規則

○第一款 犯罪ノ告訴 二四丁

○第二款 犯罪ノ下吟味 二四丁

○第三款 裁判權ノ互ニ抵觸スル時其管轄ヲ定ムル規則 二七丁

○第四款 控訴裁判所ニ於ケル雙方ノ論辨 二九丁

○第五款 裁判言渡ヲ控訴シ及ヒ之ヲ取消サント訴フル事

三〇丁

○第六款 陪審ノ姓名目錄ヲ作り及ヒ裁判官輔佐ヲ撰ム事 三〇丁

三〇丁

○第七款 裁判言渡ヲ執行フ事 三二丁

○第三編 自第三十九條至第四十條

○第一章 別段ノ規則 三五丁

○第二章 終尾ノ規則 三五丁



四 埃及法 民法草案目錄

- 前加編 自第一條至第十一條 四一丁
- 第一編 自第十二條至第四十三條 財產 四三丁
- 第一章 財產ノ種類 四一丁
- 第二章 所有ノ權 四三丁
- 第三章 入額所得ノ權 四四丁
- 第四章 土地ノ權利 四九丁
- 第五章 所有ノ權及ヒ物權ヲ得ルノ方法 五三丁
- 第一款 義務ノ効 五四丁
- 第二款 生存中ノ贈遺 五五丁
- 第三款 遺物相續 五七丁
- 第四款 所有者ナキ財產ヲ己レノ有ニ歸スル權

五

- 第五款 主ニ因テ從ヲ併スノ權 五八丁
- 第六款 不動産ニ付テ先買ノ權 五九丁
- 第六款 不動產ニ付テ先買ノ權 六二丁
- 第七款 期滿得免ノ權 六四丁
- 第六章 所有ノ權及ヒ物件ヲ失フ事 六八丁
- 第二編 自第四百四條 義務ノ事 七七丁
- 第一章 總テ義務ノ事 七七丁
- 第二章 契約ヨリ生スル義務 八八丁
- 第三章 所爲ヨリ生スル義務 九三丁
- 第四章 法律上ヨリ生スル義務 九六丁
- 第五章 義務ノ消散スル事 九七丁
- 第一款 義務ヲ行フ事 九八丁



- 第二款 義務ヲ解除スル事 一〇三丁
- 第三款 義務ヲ釋放スル事 一〇四丁
- 第四款 義務ヲ更改スル事 一〇六丁
- 第五款 二箇ノ義務互ニ相殺スル事 一〇九丁
- 第六款 權利ト義務ト渾同スル事 一一二丁
- 第七款 期滿免除ノ權 一一二丁
- 第六章 義務ノ証及ヒ義務免除ノ証 一一五丁
- 第三編 自第三百三條至各種ノ契約
- 第一章 賣買ノ契約
- 第一款 總テ賣買ノ契約 一二三丁
- 第二款 賣主及ヒ買主 一二五丁
- 第三款 賣買ス可キ物件 一三〇丁

- 第四款 賣買契約ノ効 一三二丁
- 第一節 所有ノ權ヲ移ス事 一三三丁
- 第二節 品物ノ引渡及ヒ品物ニ付テノ保證 一三五丁
- 第一則 品物ノ引渡 一三五丁
- 第二則 品物ニ付テノ保證 一四六丁
- 第一種 賣買ニ管係ナキ者ヨリ物品ヲ取戻サント訴フルコトナキ旨ヲ賣主ノ買主ニ保證スルコト 一四六丁
- 第二種 賣買シタル物品ニ目ニ觸レサル不良ノ所ナキ旨ヲ賣主ノ買主ニ保證スル事 一五一丁
- 第三節 代價ヲ拂フ事 一五六丁



○第五款 賣主ニ損失アル原由ヲ以テ賣買ノ契約ヲ取消ス事 一六〇丁

○第六款 買戻ノ約束アル賣買 一六〇丁

○第七款 權利ノ賣買 一六五丁

○第二章 貸貸ノ契約 一六九丁

○第一款 物件貸貸ノ契約 一六九丁

○第二款 人身ノ貸貸及ヒ勞力ノ貸貸 一八三丁

○第三章 會社ノ契約 一八九丁

○第一款 會社ノ契約 一八九丁

○第二款 會社ノ分派及ヒ其他ノ分派 一九八丁

○第四章 貸借ノ契約及ヒ年金ノ契約 二〇三丁

○第一款 耗盡セサル物ノ貸借 二〇四丁

○第二款 耗盡ス可キ物ノ貸借及ヒ年金ノ契約 二〇五丁

○第五章 附托ノ契約 二〇八丁

○第六章 保證ノ契約 二一二丁

○第七章 名代ノ契約 二一九丁

○第八章 和解ノ契約 二二五丁

○第九章 質入ノ契約 二二八丁

○第四編 自第六百七十五條 債主ノ權利 至第七百六十九條

○第一章 債主ノ種類 二三二丁

○第一款 通常ノ債主 二三三丁

○第二款 不動産書入質ノ權アル債主 二三三丁

○第三款 先取リノ特權アル債主 二四六丁



〇第四款 財産引留ノ權アル債主 二五〇丁

〇第二章 物權ノ證 二五〇丁

〇第三章 不動産書入質ノ書記局 二五五丁

埃及法 民法草案目錄終  
律書

埃及法 海上商法草案目錄  
律書

〇第一章 船舶ノ事 二六三丁

〇第二章 船ヲ抵償トシテ差押ヘ之ヲ賣拂フ事 二七一丁

〇第三章 船ノ持主ノ事 二八二丁

〇第四章 船長ノ事 二八五丁

〇第五章 船ノ役員及ヒ乗組人雇入ノ事并其雇賃ノ事 三〇〇丁

〇第六章 船借入契約ノ事 三一四丁

〇第七章 積荷目錄ノ事 三一七丁

〇第八章 船ノ借入賃ノ事 三二〇丁

〇第九章 旅客ノ事 三三六丁

〇第十章 船又ハ積荷ヲ引當品トシテ金高ヲ借入ル、契約ノ事



○第十一章 海上受合ノ事

三四二丁

○第一款 海上受合ノ契約ノ法式及ヒ其目的 三五四丁

○第二款 受合ヲ爲ス者ト之ヲ爲サシムル者トノ義務 三六五丁

○第三款 受合ヲ爲サシムル者之ヲ爲ス者物件ヲ抛棄シテ受

合高ヲ得ント求ムル事

三七四丁

○第十二章 意外ノ損費ノ事

○第一款 意外ノ損費ノ義意其種類及ヒ規則 三八八丁

○第二款 船ト積荷トノ雙方ニテ擔當ス可キ意外ノ損費又ハ

其中一方ノミニテ擔當ス可キ意外ノ損費ニ於ケル投荷ノ

事及ヒ投荷ニ付テノ損失ヲ擔當スル事 三九七丁

○第十三章 期滿得免ノ事

四〇七丁

○第十四章 訴ヲ拒ム事

四〇九丁



埃及法 訴訟法及ヒ商法草案目錄

○前加總規則 自第一條至第二十五條

○第一編 始審裁判所ニ於ケル訴訟

四二一丁

○第一章 訴訟事件ノ本性及ヒ大小ニ付テノ裁判所管轄規則

四二一丁

○第二章 裁判所々在ノ地ニ付テノ訴訟并ニ管轄規則及ヒ訴訟

事件ヲ簿冊ニ記スル事

四二六丁

○第三章 原告被告又ハ其名代人ノ出席

四三二丁

○第四章 檢察官ニ報告スル事

四三八丁

○第五章 書面ヲ以テ吟味ヲ爲ス事

四四三丁

○第六章 裁判ノ事

四四六丁

○第七章 抗傳ノ時ノ裁判言渡

四五五丁

○第八章 一方ヨリノ願ニ付キ言渡 裁判言渡ニ付キ爲ス事

○第九章 至急吟味ノ特別ナル手續

○第十章 訴訟吟味ノ間ノ種々ノ手續

○第一款 訴訟ニ付キ故障ヲ述フル事

○第一節 裁判所ノ管轄異ナルヲ以テ訴訟ニ付テノ故障ヲ

申述フル事及ヒ他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移スヲ求ムル事

○第二節 取消ヲ求ムル事

○第三節 訴訟ノ猶豫ヲ求ムル申立

○第二款 證據ノ事ニ付テノ訴訟手續

○第一節 雙方本人ノ問糺



- 第二節 誓ノ事 四七三丁
- 第三節 證人吟味ノ事 四七七丁
- 第四節 監定人ノ事 四九二丁
- 第五節 土地ヲ檢査スル事 四九八丁
- 第六節 裁判所ヲ移ス事 五〇〇丁
- 第七節 書類ヲ驗眞スル事 五〇一丁
- 第八節 書類贋造ノ訴 五〇八丁
- 第三款 附帶ノ反訴及ヒ他人ノ訴訟ニ干渉スル事 五〇四丁
- 第四款 訴訟手續ヲ中止スル事及ヒ其手續ヲ取消ス事 五一六丁
- 第五款 裁判役ニ付キ故障ヲ申立ル事 五二〇丁

- 第十一章 裁判言渡ヲ取消サントスル方法
- 第一款 抗傳者裁判言渡ニ付キ故障ヲ述フル事 五二九丁
- 第二款 控訴ノ事 五三四丁
- 第三款 原告及ヒ被告ニ非サル者ヨリ裁判言渡ニ付キ故障ヲ述フル事 五四二丁
- 第四款 敬慎願書ノ事  
レクエツトシビール 五四四丁
- 第十二章 裁判言渡執行ノ事  
正キセキユシチン 五四八丁
- 第一款 總規則 五四八丁
- 第二款 負債者ニ人ヨリ物件ヲ渡スコトヲ其債主ノ差留ル事 五六〇丁
- 第三款 動産ヲ抵償トシテ差押ヘ之ヲ賣拂フ事



○第四款 年金ヲ得ルノ權及ヒ株數證書又ハ貸金證書ヲ差押  
ヘテ之ヲ賣拂フ事 五八四丁

○第五款 差押ヘタル物權動ノ價高ヲ債主數名ニ分派スル事 五九三丁

○第六款

○第一節 不動産差押ヘノ事及ヒ糶賣ノ事 六〇二丁

○第二節 不動産差押ニ付テノ附帶ノ訴訟糶ニテ不動産ヲ  
買入レタル者其代價ヲ拂ハサルニ因リ其者ノ引受ニテ  
更ニ糶賣ニ爲ス事債主ノ差押ヘタルニ非サル不動産ヲ  
裁判手續ヲ以テ賣拂フ事 六二四丁

○第七款 書入質ト爲シタル不動産ノ糶賣代價ヲ債主數名ニ

分派スル事

六三八丁

○第十三章 種々ノ手續

○第一款 裁判役不正ノ裁判ヲ爲シタルニ因リ損失ヲ受ケタ  
ル時其償ヲ得ントスル訴訟 六四六丁

○第二款 權利ヲ保全スル爲メノ處置 六五〇丁

○第三款 負債者債主ニ其債ヲ還サント提供スル手續及ヒ其  
借り高ヲ裁判所ニ預クル手續 六五四丁

○第四款 證書ノ寫ヲ渡ス事 六五八丁

○第五款 判断人ノ事 アルビトル 六五九丁



埃及法律書 刑法草案目錄

〇第一編 自第一條至第七十五條

〇第一章 總規則

六六七丁

〇第二章 重罪ニ用フ可キ刑

六七三丁

〇第三章 輕罪及ヒ註誤ニ用フ可キ刑

六八〇丁

〇第四章 輕罪ト重罪トニ通シ用フ可キ附帶ノ刑

六八三丁

〇第五章 被告人ノ宥恕ヲ得又ハ罰ヲ受ケ又ハ他人ノ犯罪ヲ擔

六八四丁

當ス可キ場合

〇第二編 自第七十六條至第九十六條 公事ニ對スル重罪輕罪及ヒ其刑

〇第一章 國ノ外部ノ安寧ヲ害スル重罪及ヒ輕罪

六九一丁

〇第二章 國ノ内部ノ安寧ヲ害スル重罪及ヒ輕罪

六九三丁

〇第三章 納賄ノ罪

六九九丁

〇第四章 官金ヲ私スル罪及ヒ収斂ノ罪

七〇四丁

〇第五章 擅權ノ罪及ヒ職務ニ反シノ罪

七〇九丁

〇第六章 官吏ノ人民ヲ虐スル罪

七一三丁

〇第七章 官命ニ抗スル罪、官命ニ背ク罪、官吏ニ不敬ヲ加フル罪

七一八丁

〇第八章 囚徒ノ逃亡及ヒ犯人ヲ隱匿スル罪

七二一丁

〇第九章 封印ヲ破毀スル罪及ヒ官署ニ在ル證書及ヒ物品ヲ奪

フ罪

七二四丁

〇第十章 官職ヲ僭スル罪

七二八丁



- 第十一章 法教ノ自由ヲ妨クル罪 七二八丁
- 第十二章 記念ノ標識ヲ破壊スル罪 七二九丁
- 第十三章 電信ニ障礙ヲ爲ス罪 七二九丁
- 第十四章 印刷及ヒ教育ニ管スル罪 七三一丁
- 第十五章 貨幣贗造ノ罪 七三三丁
- 第十六章 贗造ノ罪 七三五丁
- 第三編 自第九百九十七條 平民ニ對スル重罪及ヒ輕罪並ニ其刑  
至第三百三十條
- 第一章 放火ノ罪 七四三丁
- 第二章 人ヲ殺ス罪、創傷毆擊ノ罪脅迫ノ罪 七四五丁
- 第三章 墮胎ノ罪、偽造ノ飲料ヲ賣ル罪、買主ノ罪證ヲ要セス毒藥ヲ賣ル罪 七五四丁
- 第四章 風俗ヲ亂ス罪 七五七丁

- 第五章 法ニ背キテ人ヲ逮捕シ及ヒ禁錮スル罪、幼年少年ノ者ヲ拐引スル罪、婦女ヲ拐引スル罪 七六〇丁
- 第六章 偽證、偽誓ノ罪 七六三丁
- 第七章 讒訴、誣罔、秘密漏告ノ罪 七六五丁
- 第八章 盜罪 七六八丁
- 第九章 倒産ノ罪及ヒ詐僞ヲ以テ財産ヲ奪フ罪 七七六丁
- 第十章 背信ノ罪 七八一丁
- 第十一章 糶賣ノ自由ヲ妨クル罪及ヒ商賣取引ニ於ケル詐僞ノ罪 七八三丁
- 第十二章 賭博及ヒ富場ヲ開ク罪 七八七丁
- 第十三章 滅盡、破壊、損害ノ罪 七八八丁



○第四卷 自第三百三十一條  
 至第三百四十一條  
 註誤  
 總規則

七九四丁  
 八〇一丁

埃及法  
 律書 刑法草案目錄 終

埃及法  
 律書 治罪法草案目錄

○第一卷 自第一條至預先ノ治罪

○第一章 總規則 八〇三丁

○第二章 司法警察 八〇五丁

○第三章 下吟味ヲ求ムル事及ヒ刑事ノ訴訟 八一一丁

○第四章 犯罪告訴及ヒ民事原告ノ事 八一三丁

○第五章 下吟味ノ事及ヒ下吟味掛リ裁判役ノ事 八一五丁

○第六章 證據ノ事 八一七丁

○第一款 證物ノ事 八一八丁

○第二款 證人ノ事 八二〇丁

○第七章 犯罪被告人ニ對スル預防ノ處置 八二五丁



○第八章 下吟味ノ終ル事及ヒ被告人ヲ相當ノ裁判所ニ移ス事

八三四丁

○第二卷 自第三百三十一條至 裁判所

八四一丁

○第一章 註誤裁判所

八四九丁

○第二章 懲治罪裁判所

八五五丁

○第三章 重罪裁判所

八五七丁

○第一款 陪審

八六二丁

○第二款 裁判席ヲ開ク前ノ手續

○第三款 重罪裁判所ノ裁判席雙方ノ論辨、裁判言渡ノ事

八六五丁

○第四款 重罪裁判所ノ言渡ヲ取消スヲ及ヒ其言渡ノ如ク執

八七九丁

行フ事

○第五款 重罪裁判所ニ於テ被告人ニ抗辯ノ儘刑ヲ言渡ス事

八八二丁

○第四章 各種ノ刑法裁判所ニ通スル規則

八八四丁

○第五章 期滿免除ノ事

八八九丁

埃及法  
律書 治罪法草案目錄終



埃及立合裁判司法職規則

○第一篇 民法及商法事件ニ於ケル裁判ノ權

○第一章 初告裁判所及控訴裁判所

トリビユナルドプロミエールアンスタンス  
クウルダツベル

○第一款 設立及編成ノ方

第一條 「アレキサントリー」「カイル」「サカシグ」ノ三ヶ所ニ於テ各初告裁判所一箇ヲ設クヘシ

第二條 右裁判所ニハ裁判官七名ヲ置クヘシ但シ其中四名ハ外國人ニシテ三名ハ本國人タルヘシ裁判官渡ハ裁判官五名ニテ之ヲ爲スヘシ其中三名ハ外國人二名ハ本國人タルヘシ

外國人ノ裁判官中一名ハ副長ノ名義ヲ以テ上席ヲ爲スヘシ但シ其人ハ裁判所ノ外國人裁判官ト本國人裁判官トノ全員ノ半ハ以上ノ



投言ヲ得タル者タルヘシ  
商法ニ管スル事件ニ付テハ裁判所ニ於テ商人二名ヲ呼ンテ裁判官  
輔佐ト爲スヘシ但シ其一名ハ本國人タルヘク又一名ハ外國人タル  
ヘクシテ共ニ決議ノ投言ヲ爲スノ權ヲ有シ且裁判官ノ投言ヲ以テ  
之ヲ選舉スヘシ

第三條 「アレキサンドリ」ニ於テハ控訴裁判所一ヶ所ヲ設クヘシ但  
シ其裁判官ハ十一名ニシテ其中四名ハ本國人七名ハ外國人タルヘ  
シ外國人裁判官中ノ一名ハ副長ノ名義ヲ以テ上席ヲ爲スヘク之ヲ  
選ム方法ハ初告裁判所ニ於ケルト同一タルヘシ  
控訴裁判所ノ裁判言渡ハ裁判官八名ニテ之ヲ爲スヘク但シ其中五  
名ハ外國人三名ハ本國人タルヘシ

第四條 若シ控訴裁判所ニ於テ其裁判所又ハ初告裁判所ノ事務繁劇

ナルニ付キ裁判官ノ員數ヲ増スノ必要ナルヲ指示ス時ハ其裁判  
官ノ員數ヲ増スヲ得ヘシ  
若シ夫レ迄ノ中ニ控訴裁判所又ハ初告裁判所ノ裁判官數員同時ニ  
不在トナリ又ハ差支アル時ハ控訴裁判所ノ長外國人ノ裁判官ニ付  
テハ他ノ初告裁判所ニアル其同僚又ハ控訴裁判所ニアル其同僚ヲ  
シテ之ニ代リ其缺ヲ補ハシムヘシ但シ控訴裁判所ノ裁判官中ノ一  
人初告裁判所ノ裁判席ニ列スルノ任ヲ受ケタル時ハ其上席ヲ爲ス  
ヘシ

第五條 裁判官ヲ撰任スルハ埃及政府ノ權ニアリトス然レモ右政府  
ハ其選任スル人物ノ相當ノ人タルヲ安堵スル爲メ外國政府ノ司法  
卿ニ頼ミ其政府ノ許可許諾ヲ得タル者ニ非レハ之ヲ雇入レサルベ  
シ



四

第六條 控訴裁判所及ヒ各初告裁判所ニ於テ書記官一名ト其代理トナルヲ得ヘキ誓ヲ爲シタル書記見習數名トヲ置クヘシ

第七條 控訴裁判所及ヒ初告裁判所ニ於テ誓ヲ爲シタル通辨官相當ノ員數ヲ置キ並ニ裁判席ノ用務ヲ爲シ且諸書類ヲ送達シテ裁判言

渡ヲ執行スル使吏必要ノ員數ヲ置クヘシ

第八條 書記官、使吏、通辨官ハ最初政府ヨリ之ヲ選任スヘシ但シ書記官ハ最初外國ニ於テ現ニ裁判所附官吏ノ職ヲ行ヒ居リ又ハ以前其職ニ在リシ者又ハ外國ニ於テ其職ヲ行ヒ得ヘキノ力アル者ノ中ヨリ之ヲ選舉スヘシ但シ此等ノ者ハ其附屬スル裁判所ニ於テ其職ヲ黜クルヲ得ヘシ

○第二款 裁判所ノ管轄

第九條 本國人ト外國人トノ間ノ民法及ヒ商法上ノ訴訟及ヒ國ヲ異

ニスル外國人等ノ間ノ同種類ノ訴訟並ニ國ヲ異ニセスト雖モ總テ此人ト彼人トノ間ノ不動産ニ管スル物權上ノ訴訟ハ初告裁判所ニテ之ヲ裁判スルノ特權アリ

第十條 埃及副王殿下ノ政府行政局ダイラ及ヒ副王ノ一族ハ外國人トノ訴訟ニ於テ右初告裁判所ノ裁判ヲ受クヘシ

第十一條 右初告裁判所ハ官地所有ノ權ニ管スル訴訟ヲ裁判スルノ權ナク又行政處置ヲ解明シ又ハ之ヲ妨止スルノ權ナシト雖モ民法ニ定メタル場合ニ於テハ行政ノ處置ヲ以テ外國人ノ權利ヲ妨害シタルニ付テノ訴訟ヲ裁判スルヲ得ヘシ

第十二條 寺院ノ不動産所有ノ權ヲ奪ハントスルニ付キ外國人ヨリ右寺院ニ對スル訴訟ハ右初告裁判所ノ裁判ヲ受ク可カラス然レモ原告被告ノ何人タルヲ問ハス法律ニ適フタル不動産占有ノ權ゴッセシヤン所有

五



六

ト異ニ付テノ訴訟ハ右初告裁判所ニ於テ裁判スルヲ得ヘシ  
レリ

第十三條 不動産ノ占有者及ヒ所有者ノ何人タルヲ問ハス其不動産  
ヲ外國人ニ質入シタルノミニ因リ右初告裁判所ニ於テ其書入質  
ノ法律ニ適シタルト否トノ事並ニ其書入質ヨリ生シタル諸件ヨリ  
不動産ヲ差押ヘテ之ヲ賣拂ヒ其代金ヲ分配スル事ニ至ル迄ノ諸件  
ヲ裁判スルヲ得ヘシ

第十四條 初告裁判所ニ於テハ裁判官中ノ一名ヲ選ンテ治安裁判官  
ノ職ヲ任シ原告被告ノ雙方ヲ和解セシメ且細事ヲ裁判セシムヘシ  
但シ其事件ノ限ハ訴訟法ニ之ヲ定ムヘシ

○第三款 裁判席ノ事

第十五條 裁判席ハ公ケニシテ衆庶ノ來廳ヲ許ルスヘシ但シ裁判所  
ニ於テ其趣意ヲ記シタル決定書ヲ以テ風儀靖寧ノ爲メ陰カニ裁判

席ヲ開クヘキヲ言渡シタル時ハ格別ナリトス

訴訟ノ答辨ハ自由タルヘシ

第十六條 裁判所ニ於テ互ニ論辨ヲ爲シ並ニ證書及ヒ裁判言渡書ヲ  
記スル爲メ用フル法律國語ハ本國語及ヒ意大利語佛蘭西語タルヘ  
シ

第十七條 代理人ノ免狀ヲ得タル者ニ非レハ控訴裁判所ニ於テ雙方  
ノ名代トナリテ論辨ヲナス可カラス

○第四款 裁判言渡ヲ執行フ事

第十八條 裁判言渡ヲ執行フハ總テ領事又ハ其他ノ行政官ノ所爲ニ  
管スルヲナク裁判所ノ命令ヲ以テ爲スヘシ○裁判言渡ノ執行ハ裁  
判所ノ使吏之ヲ爲シ若シ又地方官ノ助ヲ借ルノ必要ナル時ハ裁  
判所ノ使吏地方官ノ助ヲ得テ之ヲ爲スヘシ但シ如何ナル場合ニ於

七



テモ行政官裁判言渡ノ執行ニ干涉スヘカラス  
然レモ裁判所ヨリ裁判言渡ノ執行ヲ任セラレタル裁判所官吏ハ其  
執行ノ日時ヲ領事館ニ報告スヘク若シ之ヲ報告セサル時ハ其言渡  
ノ效ナク且其裁判所官吏ハ損失償還ノ訴ヲ受クヘシ○領事ハ右ノ  
報告ヲ得タル上ニテ裁判言渡執行ノ場所ニ立合フヲ得ヘク若シ  
領事之ニ立合ハサル時ハ其來ルヲ待タスシテ裁判言渡ノ執行ニ取  
掛ルヘシ

○第五款 裁判官ノ職ヲ動カス可ラサル事裁判官ノ昇級

兼職ノ禁裁判所取締ノ事

第十九條 控訴裁判所及初告裁判所ノ裁判官ハ其職ヲ動カスヘカラ  
ス

五ケ年ノ間先ツ假リニ裁判官ノ職ヲ動カス可カラスト定メ置キ其

試験ノ期終リタル後ニ至リ其職ヲ動カス可カラサルヲ確定スヘ  
シ

第二十條 裁判官ノ昇級及此初告裁判所ヨリ彼初告裁判所ニ移ル  
ハ本人承諾ノ上控訴裁判所ノ投言ヲ以テ之ヲ爲ス可シ但シ控訴裁  
判所ニテハ此事ニ付キ管係アル裁判所ノ意見ヲ聞クヘシ

第二十一條 裁判官書記官書記官見習通辨官使吏ノ職ニ在ル者ハ其  
他ノ俸給ヲ得ル職務又ハ商人ノ職業ヲ兼行フ可カラス

第二十二條 裁判官ハ埃及政府ヨリ名譽ノミノ尊稱又ハ利得アル尊  
稱ヲ受ク可ラス

第二十三條 同等ノ裁判官ハ皆ナ同一ノ俸給ヲ受ヘシ○若シ其俸給  
外ニ謝金ヲ受ケ又ハ俸給ノ増金ヲ受ケ又ハ價アル贈物及ヒ其他ノ  
利得ヲ受クルヲ承諾シタル時ハ裁判官其職ト俸給トヲ失ヒ別ニ



其償ヲ得ヘキノ權ナシ

第二十四條 裁判官、裁判所官吏、代言人ノ取締ヲ爲スハ、控訴裁判所ニ  
アリトス。〇若シ裁判官其裁判官タルノ名譽ヲ辱カシムル事ヲ爲シ  
又ハ其投言ノ不羈自由ヲ害スル事ヲ爲シタル時其取締ノ爲メノ罰  
ハ其職ヲ黜ケ且償ヲ與ヘスシテ其俸給ヲ奪フニアリトス。〇若シ代  
言人其名譽ヲ辱カシムル事ヲ爲シタル時其取締ノ爲メノ罰ハ裁判  
所ニ於テ論辨スルヲ得ヘキ代言人ノ姓名表中ヨリ其姓名ヲ削リ去  
ルニアリテ其裁判言渡ハ控訴裁判所ノ總會議ニ於テ出席セシ裁判  
官全員ノ四分三以上承諾シタルニ非レハ之ヲ爲ス可カラズ

第二十五條 領事仲間ノ一名ヨリ裁判官裁判所取締ノ規則ヲ犯シタ  
ルニ付キ政府ニ上告シタル訴訟ハ控訴裁判所ニ持出シ其裁判所ニ  
テ其犯罪ヲ吟味スヘシ

〇第二章 檢官局

第二十六條 檢官局一箇ヲ設ケ檢事長ヲ以テ其局長ト爲スヘシ

第二十七條 控訴裁判所並ニ初告裁判所ニ於テ檢事長ノ指揮スル其

代役數員ヲ置クヘシ但シ其員數ハ裁判席ノ用務ト司法警察ノ職ト  
ニ應シテ之ヲ定ム

第二十八條 檢事長ハ總テ控訴裁判所、初告裁判所、刑法裁判所ノ裁判  
席ニ出テ並ニ諸裁判所總會議ニ出席スルヲ得ヘシ

第二十九條 檢事長及ヒ其代役ハ其職ヲ動カスヲ得ヘクシテ之ヲ選  
任スルハ埃及副王殿下ノ權ニアリトス

〇第六款 別段ノ規則及ヒ假ノ規則

第三十條 裁判官通辨官及ヒ翻譯書ニ付キ故障ヲ述フルノ權ハ原被  
告人之ヲ有スルモノトス



第三十一條 初告裁判所ノ各書記局ニ於テ「メケメ」埃及國舊來ノ官吏一員ヲ置キ其官吏右裁判所ノ書記官ヲ輔ケテ不動産所有ノ權ヲ移ス證書及ヒ不動産ヲ他ノ債主ヨリ先キニ抵償トシテ差押ユヘキ債主ノ特權ヲ定ムル證書ヲ記シ且別ニ其寫ヲ記シテ之ヲ「メケメ」ニ送ルヘシ

第三十二條 又「メケメ」ニハ初告裁判所ノ書記官ノ任シタル書記見習ヲ置キ其見習ヨリ不動産所有ノ權ヲ移ス證書及ヒ不動産質入ノ證書ヲ書記官ニ送り書記官之ヲ不動産書入質ノ簿冊ニ登記セシムヘシ

書記見習ハ右等ノ證書ヲ相違ナク書記官ニ送ルヘク若シ之ヲ送ラサル時ハ損失ノ償ヲ爲スヘキノ訴ヲ受ケ且裁判所取締ノ爲メノ罰ヲ受クヘシ但シ書記見習右ノ送達ヲ爲サスト雖モ前ニ記シタル證

書類ノ效ヲ失フコトナカルヘシ

第三十三條 初告裁判所ノ書記官ノ記シタル契約書、贈遺證書、不動産書入質證書、不動産所有ノ權ヲ移ス證書ハ公正ノ證書ノ力アルモノニシテ其正本ハ書記局ノ書庫中ニ藏ムヘシ

第三十四條 新タニ設クル裁判所ハ民法及ヒ商法上ノ訴訟ニ於テ其裁判ノ權ヲ行ヒ並ニ刑法上ノ訴訟ニ於テ其允許セラレタル權限内ニ裁判ノ權ヲ行フニ付テハ嘗テ埃及ヨリ各國ニ示シタル法律書ヲ適用スヘク若シ法律ノ不委、不備、不明ノ事アル時ハ裁判官性法ノ大理ト公平ノ規則トニ循フヘシ

第三十五條 政府ハ新タニ設クル裁判所ノ職務ヲ行ヒ始ムルヨリ一ケ月以前ニ右法律書ヲ公告ス可シ但シ右裁判所ノ職務ヲ行ヒ始ムル迄ハ各「ミユギリユ」埃及國舊來ノ下等裁判所ヲラント各領事館及ヒ控訴裁判所



並ニ初告裁判所ノ書記局トニ各法律國語ニテ記シタル右法律書各一通ヲ備ヘ置キ又右裁判所ノ職務ヲ行ヒ始メタル後ニ至リテモ右ノ數ヶ所ニ各其法律書一通ヲ備ヘ置クヘシ

第三十六條 又政府ハ本國人ノ身分ニ管スル法律裁判所費用ノ目錄土地堤塙溝渠ニ管スル命令書ヲ公布スヘシ

第三十七條 控訴裁判所ニ於テハ裁判席ノ警察初告裁判所ノ取締裁判所官吏及ヒ代言人ノ取締裁判席ニ於テ原被告雙方ノ名代人タル者ノ義務貧人ニ無費ニテ訴訟ヲ爲スヲ許ル事裁判官其他ニ付キ故障ヲ述ルノ權ヲ行フ事控訴裁判所ニ於テ裁判ヲ言渡スヘキ時可トスル投言ノ數ト否トスル投言ノ數ト相同シキニ方リ之ヲ處置スル方法ヲ定ムル事等ノ諸件ニ付キ一般ノ裁判規則ヲ設クヘシ  
右ノ如クニ作リタル規則書ノ下案ハ初告裁判所ニ送リテ之ヲ熟考

セシメ更ニ控訴裁判所ニテ之ヲ決議シタル後司法卿ノ命ニテ之ヲ執行フヘシ

第三十八條 民法上及ヒ商法上ノ訴訟ヲ裁判スル初告裁判所ハ其設立ヨリ一月ノ後ニ非レハ立合裁判ニ取掛ルヘカラス

第三十九條 新タニ裁判所ヲ設立スル時既ニ外國ノ領事館ニ持出シタル訴訟ハ其決定ノ裁判ニ至ル迄右領事館ニ於テ之ヲ取扱フヘシ  
○然レモ原被告雙方ノ求ト管係アル各人トノ承諾アル時ハ右ノ訴訟ヲ新設ノ裁判所ニ移スヲ得ヘシ



○第二篇 犯罪ヲ訴ヘラレシ外國人ニ付キ刑法事件ニ於ケル  
裁判ノ權

○第一章 註誤裁判所、輕罪裁判所、重罪裁判所

○第一款 裁判所ノ編成

第一條 外國人ノ告訴セラレシ註誤罪ノ裁判官ハ裁判所ノ外國人裁  
判官中ノ一名タルヘシ

第二條 輕罪並ニ重罪ノ事件ニ於ケル裁判官ノ秘密會議ニハ裁判官  
三名ト輔佐四名ト出席スヘシ但シ裁判官中ノ一名ハ本國人ニシテ

二名ハ外國人タルヘク又輔佐ハ皆外國人タルヘシ

第三條 輕罪裁判所一名懲治ノ編成モ亦前條ニ記スルト同シ

第四條 重罪裁判所ニハ裁判官三名アリテ其中一名ハ本國人タルヘ  
ク二名ハ外國人タルヘシ



十二名ノ陪審ハ皆外國人タルヘシ  
種々ノ場合ニ於テ犯罪被告人ノ求アル時ハ裁判官ノ輔佐並ニ陪審  
ノ全員ノ半ヲ其被告人ノ同國人タラシムヘシ○若シ被告人ノ同國  
人ノ數右裁判官ノ輔佐並ニ陪審ノ全員ノ半ニ足ラサル時ハ其被告  
人ノ指定シタル他國人ヲ以テ其半數ニ充タシムヘシ

第五條 若シ犯罪被告人數人アル時ハ其各人互ニ同數ノ裁判官輔佐  
又ハ陪審ヲ指定スルコトヲ得ヘシ然レモ其被告人ノ數如何ニ夥多ナ  
リト雖モ之カ爲メ裁判官輔佐又ハ陪審ノ數ヲ増スヘカラスシテ右  
被告人中裁判官輔佐又ハ陪審ヲ指定スルノ權ヲ行フ可カラサル者  
ハ闡引ニテ之ヲ定ムヘシ

○第二款 裁判所ノ管轄

第六條 註誤罪ニ付テノ訴及ヒ左ノ輕罪並ニ重罪ヲ犯シタル主從ニ

向テノ訴ハ埃及裁判所ノ管轄ナリトス

第七條 裁判官、陪審、裁判所官吏ノ其職務ヲ行フニ當リ又ハ其職務ヲ  
行ヒタル事ニ付キ直チニ此等ノ人々ニ對シテ行フタル重罪及ヒ輕  
罪但シ其重罪及ヒ輕罪ノ種類ヲ別ツテ左ノ如シ

第一 身振り言語脅嚇等ヲ以テ加ヘタル不敬

第二 裁判官、陪審、裁判所官吏ノ面前タルト裁判所ノ部内ナルト  
ヲ問ハス言語ヲ以テスル誹謗誣讒又ハ貼付書、書類、印刷書、畫圖  
判シ物等ヲ以テ爲ス所ノ誹謗誣讒

第三 裁判官、陪審、裁判所官吏ノ身體ニ對シ爲シタル暴行但シ其  
暴行中ニハ豫謀ノ有無ヲ問ハス故意ヲ以テ毆擊創傷シ又ハ殺  
害シタル等ノ諸罪ヲ包含スヘシ

第四 裁判官、陪審、裁判所官吏ヲシテ強テ不正枉法ノ所爲ヲ行ハ



シムル爲メ又ハ正當適法ノ所爲ヲ制止セシムル爲メ右ノ人々ニ加ヘタル暴行又ハ脅迫

第五 官吏等同上ノ目的ヲ以テ右ノ人々ニ對シ其權威ヲ恣ニシタル罪

第六 右ノ人々ニ對シ直チニ賄賂ヲ贈リタル罪

第七 官吏ノ原被告中一方ヲ曲庇スル爲メ裁判官ニ陰ニ請求シタル罪

第八條 裁判言渡書及ヒ裁判所ノ命令書ヲ執行フヲ妨クル重罪及ヒ輕罪但シ其重罪及ヒ輕罪ノ種類ヲ別ツテ左ノ如シ

第一 現ニ公務ヲ行フ裁判官又ハ呼出狀ヲ送達シ或ハ裁判言渡書ヲ執行ヒ或ハ裁判所ノ命令書ヲ執行フ裁判所官吏又ハ其執行ニ助力スヘキノ任ヲ受ケタル公ノ兵力ヲ指揮スル者ニ對シ

暴行脅迫ヲ爲シテ抗拒シ又ハ襲撃シタル罪

第二 官吏裁判言渡書又ハ裁判所命令書ノ執行ヲ妨クル爲メ其權威ヲ恣ニシタル罪

第三 同上ノ目的ヲ以テ裁判所書類ヲ盜奪シタル罪

第四 裁判所官吏ノ命ヲ以テ附ケタル封印ヲ除去スル罪及ヒ裁判言渡書ニ因リ差押ヘタル物品ヲ盜奪スル罪

第五 裁判所ノ命令又ハ裁判言渡書ニ因リ捕ヘタル囚徒ノ逃亡シタル罪及ヒ其逃亡ヲ得セシメタル罪

第六 同上ノ場合ニ於テ逃亡シタル囚徒ヲ隱匿シタル罪

第七 家資分散人其分散公告ノ裁判言渡書ヲ送達シタル後又ハ之ヲ貼附シタル後債主全員ノ損害ヲ爲スタメ其金額或ハ財産ノ一部ヲ隱クシ又ハ其金額或ハ財産ノ一部ヲ隱クスノ目的ヲ



以テ其簿冊ヲ滅却シ又ハ同上ノ目的ヲ以テ其眞ニ負ハサル債  
ヲ偽テ負ヒタリト述ヘ又ハ他人ヲシテ其證人タラシムル等ノ  
方法ヲ用ヒ詐僞ノ家資分散ヲ爲ス罪ヲ犯シタルニ付キ其家資  
分散人ノミニ對シ爲シタル犯罪ノ告訴

第九條 裁判官陪審裁判所官吏ノ其職ヲ行フニ當リ行フタル輕  
罪及ヒ重罪並ニ其職務ヲ冒瀆シテ行フタル輕罪及ヒ重罪但シ  
其輕重罪ノ種類ヲ別ツテ左ノ如シ

右ノ模様ニ於テ裁判官陪審裁判所官吏ノ行フタリト告訴セ  
ラレシ通常ノ重罪及ヒ輕罪

右通常ノ輕重罪ノ外別段ノ輕重罪ハ左ノ如シ

第一 曲庇又ハ疾惡ノ念ヲ以テ爲シタル不正ノ裁判言渡

第二 賄賂ヲ納ル、罪

第三 賄賂ヲ納レントスル計策ヲ告ケサル罪

第四 裁判ヲ爲スヲ肯セサル罪

第五 人民ニ對シテ苛虐暴行ヲ爲スノ罪

第六 相當ノ法式ヲ行ハスシテ強テ人ノ住所ニ入ルノ罪

第七 不正ニ金額ヲ收納スル罪 賄賂ト異ナリテ強テ金  
額ヲ納メシムルヲ云フ

第八 官金ヲ私スル罪

第九 不正ニ人ヲ捕縛スル罪

第十 裁判言渡書及ヒ證書類ヲ偽造スル罪

右ノ規則中ニ於テ裁判所官吏ト稱スルハ書記官、書記見習、裁判  
所附通辨官、本官ノ使吏ヲ總テ言フナリ但シ裁判所ノ命ヲ以テ  
一時假リニ書類ヲ送達シ又ハ其他使吏ノ職務ヲ爲スノ任ヲ受  
ケタル者ハ裁判所官吏ノ名稱中ニ包含セス



又裁判官ノ名稱中ニハ其輔佐ヲモ包含スルモノトス

○第二章 外國人ノ告訴セラレタル註誤及ヒ輕重罪ヲ裁判スルニ付キ治罪法ヲ更改スル規則

○第一款 犯罪ノ告訴

第十一條 原書ニ第十條ヲ脱スルハ誤ナルヘシ若シ領事ヨリ裁判官又ハ裁判所官吏ノ犯罪ヲ告訴スル時ハ政府ヨリ檢官ニ必要ナル命令ヲ送り檢官引續テ其犯罪ヲ告訴ス可シ

第十二條 總テ輕重罪ニ付テノ告訴アル時ハ其下吟味ヲ爲シ然ル上ニテ其下吟味ノ模様ヲ裁判官ノ秘密會議ニ啓告スヘシ

第十三條 犯罪被告人ヲ管轄スル領事ハ遅延ナク其犯罪告訴ノ旨ノ報告ヲ受クヘシ

○第二款 犯罪ノ下吟味  
アンストリックシナン

第十四條 下吟味及ヒ雙方ノ論辨ハ被告人ノ知ル所ノ法律言語ニテ爲スヘシ

第十五條 註誤ト重罪又ハ輕罪トテ問ハス外國人ノ告訴セラレタル犯罪ノ下吟味ヲ爲シ及ヒ裁判席ニ於テ雙方ノ論辨ヲ指揮スルハ外國人ノ裁判官ニ限ルヘシ

第十六條 輕重罪ノ被告人ニ代言人ノアラサル時ハ問糺ノ時裁判所ノ公務ヲ以テ其代言人ヲ任スヘシ若シ之ヲ任セサル時ハ其問糺ノ効ナカルヘシ

第十七條 埃及ニ於テ犯罪被告人ノ留置場ヲ十分ニ設立シタルノ證アル迄ハ犯罪被告人ヲ問糺シタル上其召捕ヨリ遅クモ二十四時内ニ其國ノ領事ニ引渡スヘシ但シ其領事埃及政府ノ獄舎ニ其被告人ヲ留メ置クヘキコトヲ許シタル時ハ格別ナリトス



第十八條 下吟味掛り裁判官ノ命ニ應シ又ハ裁判言渡ヲ爲スヘキ裁判所ノ命ニ應シテ證據ヲ陳述スルヲ肯セサル證人ハ禁錮ノ刑ヲ言渡スヲ得ヘシ但シ其禁錮ノ期限ハ輕罪ノ事ニ付テハ一週ヨリ少カラス一月ヨリ多カラサル可ク重罪ノ事ニ付テハ三月ヨリ多カラサル可シ又其證人ハ何レノ場合ニ於テモ百[ピヤストル]ヨリ少カラス四千[ピヤストル]ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サルヘシ

右ノ刑ハ其場合ニ從ヒ或ハ初告裁判所ヨリ之ヲ言渡シ或ハ控訴裁判所ヨリ之ヲ言渡スヘシ

第十九條 犯罪被告人ノ尊屬及ヒ卑屬ノ親其兄弟姉妹及ヒ同一ノ姻族ノ親並ニ離婚シタルト否トテ問ハス其配偶者ノ證人タル時ノ外其他ノ證人ニ付キ故障ヲ述フ可カラス但シ檢官又ハ民事原告人又ハ犯罪被告人ヨリ右ノ人々ノ證人タルニ付キ故障ヲ述フルコトナキ

時ハ右ノ人々ノ證ヲ述ヘタル効アリトスヘシ

第二十條 下吟味ヲ爲ス間ニ被告人ノ住所ヲ探索スヘキ事アル時ハ

被告人ヲ支配スル領事ニ其旨ヲ報告スヘシ

右ノ如ク領事ニ報告ヲ爲シタルコトハ之ヲ調書ニ記スヘシ

其調書ノ寫ハ被告人問糺ノ時之ヲ領事館ニ殘シ置クヘシ

第二十一條 現行罪犯ノ時又ハ家屋ノ内ヨリ救援ヲ乞フ時ノ外ハ領事又ハ其名代人ノ立合ナクシテ夜間ニ住所ニ入ルヘカラス但シ領事ヨリ其立合ナクシテ夜間ニ住所ニ入ルコトヲ許シタル時ハ格別ナリトス

○第三款 裁判權ノ互ニ抵觸スル時其管轄ヲ定ムル規則

第二十二條 裁判官秘密ノ會議席ヲ開クヨリ三日前ニ裁判所ノ書記局ト領事又ハ其名代人トニ下吟味ノ書類ヲ送達スヘシ



領事ヨリ書類ノ寫ヲ得ント求ムル時ハ必ス其寫ヲ送ルヘク若シ之ヲ送ラサル時ハ其書類ノ効ナカルヘシ

第二十三條 犯罪被告人ヲ支配スル領事下吟味ノ書類ヲ受取リタル上ニテ其犯罪告訴ノ事件ハ己レノ管轄ニ屬シタルニ因リ自ラ之ヲ裁判スヘキ權アル旨ヲ述フル時埃及ノ裁判所ニテ之ヲ爭フニ於テハ控訴裁判所長ノ指定シタル裁判官二名ト右領事ノ選ミタル領事二名トニテ成レル會議ニテ其爭ヲ裁斷スヘシ

第二十四條 若シ下吟味掛リ裁判官ト領事ト同時ニ同一ノ事件ヲ吟味スル時雙方共ニ其事件ノ自己ノ管轄タルヘキヲ論スルニ於テハ其中一方ヨリノ求ニ從ヒ其爭ヲ裁斷スル爲メ管轄抵觸裁斷ノ會議ヲ開クヘシ

通常ノ輕重罪ノ告訴ニ付テハ下吟味掛リ裁判官ヨリ其下吟味ヲ爲

スハ己レノ權ニアルヘキヲ論ス可カラズ但シ其下吟味掛リ裁判官ノ自己ノ管轄ナリト述フル輕重罪ハ檢官ノ求刑書ニ前數條ニ從ヒ新タニ設立スル裁判所ノ管轄タルヘキ犯罪ノ種類タル旨ヲ記スル<sup>レキイットアル</sup>ト必要トス○若シ又裁判官又ハ裁判所官吏ノ害ヲ被リタルニ因リ領事ニ之ヲ訴フル時ハ領事其訴ヲ裁判スヘク他ヨリ其訴ニ付キ管轄ノ爭ヲ起ス可カラズ

第二十五條 前ニ記シタル法式ヲ行フタル上ニテ犯罪ノ告訴ヲ裁判スヘキニ定マリタル裁判所又ハ領事ハ其告訴ヲ裁判スヘク後ニ至リ其管轄ノ違フタルト申述スヘカラス

○第四款 控訴裁判所ニ於ケル雙方ノ論辨

第二十六條 控訴裁判所ニ於テ雙方ノ論辨終リ裁判官ノ裁判スヘキ箇條ノ定マリタル時裁判所長其事件ト被告人ヲ有罪トナス證並ニ



無罪ト爲ス證トノ大略ヲ書取ルヘシ

〇第五款 裁判言渡ヲ控訴シ及ヒ之ヲ取消サント訴フ  
ル事

第二十七條 註誤罪ノ事ニ付キ註誤裁判所ノ言渡ヲ控訴スルヲ得ヘキ時ハ輕罪裁判所即チ懲治罪裁判所ニ其控訴ヲ爲スヘシ

第二十八條 治罪法ニ從ヒ犯罪ノ裁判言渡ヲ取消サント訴フルヲ得ヘキ時ハ民法上ノ裁判言渡ヲ取消サント訴ヘタル時ト同一ノ方法ニ編成セシ裁判所ニ之ヲ訴フヘシ

重罪裁判所ニ出席セシ裁判官ハ其裁判所ノ裁判言渡ヲ取消サントスル訴ヲ裁判スル席ニ出ツヘカラス

〇第六款 陪審ノ姓名目錄ヲ作り及ヒ裁判官輔佐ヲ選  
ム事 ジュリ  
アッセッソール

第二十九條 陪審トナルヘキ外國人ノ姓名目錄ハ各國ノ領事仲間毎年之ヲ作ルヘシ

之カ爲メ各國ノ領事ヨリ陪審トナルニ適當シタリト思ヘル其同國人ノ姓名目錄ヲ領事仲間ノ筆頭ニ差出スヘシ〇陪審トナルヘキ者ハ年齢三十歳以上ニシテ少ナクヒ一年以上埃及ニ住シタル人タルヘシ

第三十條 領事仲間ハ各領事ヨリ差出シタル數箇ノ姓名目錄中ヨリ撰出シ其中二百五十名ヲ殘シテ之ヲ陪審ト定メ其確定ノ姓名目錄ヲ作ルヘシ

第三十一條 各國毎ニ陪審ノ數ハ多クヒ三十名少クヒ十八名タルヘシ但シ一國ノ人ヲ合シテ十八名ニ足ラサル時ハ格別ナリトス

第三十二條 輕罪則チ懲治罪 裁判官ノ輔佐ハ領事仲間ニテ陪審ノ姓名目



録中ヨリ推選スヘシ

第三十三條 各國毎ニ裁判官ノ數ハ多クハ十二名少クハ六名タルヘシ

第三十四條 若シ外國人ノ裁判官輔佐ノ數不足ナル地ニ於テ輕罪ヲ裁判スヘキ時ハ其缺ヲ補フ爲メ控訴裁判所ヨリ其近隣ノ裁判所ノ裁判官輔佐ヲ指定スヘシ

第三十五條 若シ裁判官輔佐及ヒ陪審ノ缺席シタル時ハ其時ノ場合ニ因リ初告裁判所又ハ控訴裁判所ヨリ二百「ピアストル」ヨリ少ナカラス四千「ピアストル」ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サルヘシ但シ其缺席ニ付キ正當ノ道理アル時ハ格別ナリトス

○第七款 裁判言渡ヲ執行フ事

第三十六條 埃及ニ於テ現ニ獄舎ヲ十分ニ設立シタルノ證アル迄ハ

禁錮ノ刑ヲ言渡サレシ犯人ヲ領事ノ求ニ應シ領事館附獄舎ニ繋クヘシ

第三十七條 外國人ヲ埃及ノ獄舎内ニ禁錮シタル時ハ其國ノ領事其獄舎ニ至リテ摸樣ヲ檢視スルヲ得ヘシ

第三十八條 外國人死刑ヲ言渡サレタル時ハ其國ノ公使其引渡ヲ得ント求ムルノ權アリ

之カ爲メ其裁判言渡ト其執行トノ間ニ相當ノ猶豫ヲ置キ公使ヲシテ其引渡ヲ求ムルト否トヲ決スル餘地ヲ得セシムヘシ



○第三篇

○第一章 別段ノ規則

第三十九條 新ニ設立スル裁判所ニ於テハ其裁判所ニテ選ミタル  
官吏數員ヲ置キ若シ事務ノ繁多ニシテ其處置ヲ遲延スルノ恐アル  
時ハ其官吏ヲシテ裁判官及ヒ裁判所官吏ノ職務ヲ助ケシムヘシ

○第二章 終尾ノ規則

第四十條 今ヨリ五年ノ間ハ此改正法律ヲ變更スヘカラス  
若シ五年間試験シテ此改正法律ノ有益ナルヲ明カナラサル時ハ各  
國政府以前ノ法律ヲ復スルニ又ハ埃及政府ト協議シテ更ニ此法律  
ヲ變更スルニ自由ナリトス



埃及法  
民法草案

權大内史箕作麟祥 譯

○前加篇

第一條 此律例中ノ諸法律ハ新ナル裁判所ヲ開ク日ヨリ全國地内ニ  
之ヲ施行ス可シ

第二條 其法律ハ既往ニ之ヲ施行ス可カラス○然レモ訴訟法律及ヒ  
裁判所管轄ノ法律ハ新ナル裁判所ヲ開ク前ノ義務ヨリ生シタル争  
訟ヲ裁定スルニ之ヲ適用ス可シ

第三條 新ナル裁判所ノ管轄タル可キ訴訟ニ付キ從來ノ裁判所ニ於  
テ既ニ其本案ノ始審確定ノ裁判ヲ爲シタルコトナキ時ハ新ナル裁判  
所ニ於テ引續キ其訴訟ヲ爲ス可シ  
新ナル裁判所ニ於テノ訴訟ハ從來ノ裁判所ニ於テ爲シタル最終ノ



訴訟手續ヨリ引續テ之ヲ爲ス可シ

第四條 人ノ身分及ヒ權利、夫婦結縁中ノ規則、遺物相續ノ權、遺囑贈遺

ノ權、後見及ヒ管財ニ關シタル訴訟ハ本人ノ國ノ法律ニ循テ之ヲ裁

判ス可シ○新ナル裁判所ニ於テハ此等ノ訴訟ヲ附帶ノ訴訟ト爲シ

裁判スルヲ得可キノミトス又其新ナル裁判所ニ於テハ管轄ノ裁判

所ニテ此附帶ノ訴訟ヲ裁判ス可キ期限ヲ定ムルヲ得ヘシ

第五條 不動産ハ縱令外國人ノ有スルモノト雖モ本國ノ法律ニ循ヒ

之ヲ支配ス可ク且本國ノ裁判所ニ非サレハ不動産ノ物權ニ付キ裁

判ヲ爲ス可カラス

第六條 警察ノ法律及ヒ國中安寧ノ法律ハ何人ニ限ラス國內ニ住ス

ル者之ヲ遵守ス可シ

第七條 法律ノ所缺、不備、不明ナル時ハ裁判役公平ノ規則ニ循フ可シ

第八條 此法律ヲ增補シ又ハ變更セントスル時ハ裁判役仲間ノ協議

ヲ得ヘシ又已ムヲ得サル時ハ裁判役仲間ヨリ之ヲ申立ツ可シ

第九條 何人ニ限ラス本國人ハ縱令外國ニ於テ取結ヒタル契約ノ爲

メト雖モ本國ノ裁判所ニ呼出スヲ得ヘシ

第十條 本國內ニ住スル外國人又ハ裁判所ニ呼出ヲ受クルヨリ前六

月以内ニ本國ヲ去リタル外國人モ亦本國ノ裁判所ニ呼出スヲ得

ヘシ但シ被告人ノ居所如何ヲ問ハス法律上ニ定メタル場合ニ於テ

商法裁判所ノ管轄ヲ受ク可キ時ハ此例ニ在ラス

第十一條 又刑法裁判所ハ外國人ノ居所如何ヲ問ハス其管轄タル輕

重ノ罪犯ヲ裁判ス可シ



○第一篇 財産

○第一章 財産ノ種類

第十二條 財産ハ動産又ハ不動産ナリトス

第十三條 天然又ハ人工ニ因リ移動ス可カラサル様固着シ之ヲ運轉スル時ハ必ス毀損破壊ス可キ財産ト其財産ニ付テノ物權トヲ不動産トス

第十四條 其他ノ財産ハ皆動産ナリトス

第十五條 法律上ニ用フル「モビリエー」「エッフエー、モビリエー」「ビヤァン、ミユウブル」共ニ皆動産ノ各語ハ共ニ皆動産ヲ指シ云ヒ敢テ其差別アルコトナシ

第十六條 然レモ土地ノ所有者ニ屬スル農業ノ器具及ヒ農業ニ必要ナル獸類並ニ製造所ノ所有者ニ屬スル製造所ノ器具器物ハ其附屬



スル不動産ヨリ之ヲ分離ス可カラサルヲ以テ之ヲ不動産ト看做ス可シ

第十七條 財産ニ付テハ其資益ヲ得ル者ニ管シテ數種ノ權利ヲ生ス可シ但シ其權利ハ左ノ如シ

第一 所有ノ權

第二 入額所得ノ權

第三 土地ノ權

第四 此債主ノ彼ノ債主ヨリ先キニ償ヲ得ルノ物權「プリウイ」不動産書入質ノ物權「イポテシタシ」不動産引留ノ權「レタシ」

第十八條 人民所有ノ全權ヲ得可キ財産ヲ名ケ「ミユルク」財産ト云フ  
第十九條 所有ノ權ハ官ニ屬シ官ヨリ規則書ニ定メタル場合ト約束トニ循ヒ人民ニ其入額所得ノ權ヲ讓リシ財産ヲ名ケ「アラギー」財産

又納貢財産「ビヤアン、トリ、ビユテイル」ト云フ

第二十條 寺院ノ所有スル「マインモルト」人ニ讓渡ス可ノ財産ヲ名ケ

「ワック」財産ト云フ但シ其財産ノ入額所得ノ權ハ規則書ニ定メタル約束ヲ以テ人民ニ讓渡スヲ得ヘシ

第二十一條 現今所有者ナク何人ニ限ラス最初ニ占有セシ者ノ所有トナル可キ財産ヲ名ケ自由財産又「ムウバ」財産ト云フ

第二十二條 然レモ前條ノ財産ハ政府ノ許可ヲ得タル上ニテ規則書ニ定メシ約束ニ循フニ非サレハ之ヲ占有ス可カラス

第二十三條 城塞、港口等ノ如キ官ノ財産ハ之ヲ私有ス可カラス  
第二十四條 道路、橋梁、市街等ノ如キ共同資益ノ財産モ亦前條ト同シ

○第二章 所有ノ權

第二十五條 所有ノ權トハ財産ヲ用ヒ或ハ之ヲ讓渡シ或ハ然ノミナ



ラス之ヲ破滅ス可キ全權ヲ云フ

第二十六條 財産所有ノ權アル者ハ天然又ハ人工ヲ以テ其財産ヨリ生スル諸物並ニ其財産ニ附加スル諸物ヲ所有スルノ權アリ

○第三章 入額所得ノ權

第二十七條 入額所得ノ權トハ他人ノ所有スル財産ヲ用ヒ其資益ヲ得ルノ權ナリ

第二十八條 入額所得ノ權ハ之ヲ讓リ與フル契約又贈遺ニ因リ更ニ之ヲ減ス可キヲ譬ヘハ其權ヲ減シテ「ユザー」シユ」ノ權他ハニ屬スル利益中ニテ己レニ必要ノ部分ヲ所得ト爲ス一身ノ及ヒ「アビタシ」ニ屬スル權佛蘭西民法第六百廿五條以下ニ詳ナリ及ヒ「アビタシ」ノ權他人ニ屬スル家屋ニ住ス可キ權佛蘭西民法第六百二十五條以下ニ詳ナリト爲ス可キカ如シ

第二十九條 入額所得ノ權ハ一時ノモノアリ又ハ永久ノモノアリ

第三十條 人民等ノ間ニ於テハ入額所得ノ權ヲ必ス一時ノモノト爲

ス可シ

第三十一條 入額所得ノ權ハ現時既ニ出產セシ者ノ爲メニ非レハ之ヲ設ケ定ム可カラズ又其權ハ何レノ場合ニ於テモ之ヲ得タル者ノ死去ニ因リ終ル可シ但シ其死去スル前ニ預定ノ期限ニ至リシ時ハ格別ナリトス

第三十二條 然レモ遺囑ノ贈遺ヲ爲シテ財産所有ノ權ヲ「ワク」フ「財産」事務宰相ノ管轄タル公舎ニ與ヘ其入額所得ノ權ヲ一人又ハ數人及ヒ其宗系ノ遺物相續人ニ與フルヲ得ヘシ但シ此場合ニ於テハ入額所得ノ權ヲ得タル一家ノ者盡ク「死去」シタル後ニ非サレハ其公舎ニ於テ入額所得ノ權ヲ得ヘカラス

第三十三條 官ヨリ規則書ノ箇條ニ循ヒ「アラゲ」ノ地ノ入額所得ノ權ヲ與ヘタル時ハ其權ヲ永久ノモノト爲スヲ得ヘシ



第三十四條 前條ノ場合ニ於テハ入額所得ノ權ヲ得タル者其全部又  
ハ一部ヲ更ニ他ニ讓リ與ヘ又ハ書入質ト爲スヲ得ヘシ

第三十五條 「ワシフ」財産事務宰相局ヨリ入額所得ノ權ヲ得タル者ハ  
千二百八十四年「サツフル」月七日「西洋紀元千八百六十七年六月十日」ノ  
法律ニ循ヒ其權ヲ更ニ他人ニ移スヲ得ヘシ

又其者ハ其權ヲ期限ヲ定メテ貸與ヘ又ハ質入ト爲スヲ得ヘシ  
第三十六條 入額所得ノ權ヨリ生スル權利及ヒ義務ハ之ヲ讓リ與フ  
ル證書ノ約束ト左ノ規則トニ循テ之ヲ規定ス可シ

第三十七條 入額所得者ハ財産ヲ其用法ニ循ヒ用フ可シ  
第三十八條 若シ動産ノ入額所得ノ權ヲ讓リ與フル時ハ其目錄ヲ作

リテ保證人ヲ立テシム可シ若シ保證人ヲ立ツル能ハサル時ハ動産  
ヲ賣拂ヒ其代金ヲ以テ國債證券ヲ買入レ其入額ヲ入額所得者ニ渡

ス可シ

第三十九條 入額所得者ハ使用シテ消耗スル品物ヲ用フルヲ得ヘ  
シト雖モ其權ノ終ニ至リ之ト同種ノ品物ヲ還サ、ルヲ得ス

第四十條 入額所得者ハ偶然死シタル獸類ヲ補フニ増殖シタル獸類  
ヲ用ヒ猶其餘分アル時ハ之ヲ己レノ得分ト爲スヲ得ヘシ

第四十一條 入額所得者ハ己レノ過失ニ非ラスシテ品物ノ滅盡シ又  
ハ毀損シタル時其責ニ任スルヲ得ヘシ

第四十二條 入額所得者ハ修理ノ費用ヲ擔當ス可シ且所有者ニ其費  
用ヲ出ス可キ旨ヲ迫ル可カラス

第四十三條 入額所得者ハ所有者ノ承諾ナクシテ造營又ハ植附ヲ爲  
ス可カラス但シ入額所得者ハ所得者ノ書面、自認、誓詞ヲ以テ其承諾  
ノ証ヲ立ツ可シ



第四十四條 入額所得ノ權ハ預定ノ期限ノ至リシニ因リ又ハ自カラ其權ヲ拋棄シタルニ因リ又ハ財産ノ滅盡シタルニ因リ又ハ入額所得者ノ其財産ヲ毀損シタルニ因リ消散ス可シ但シ之カ爲メ書入質ノ權アル債主ノ權利ヲ害ス可カラス

第四十五條 又入額所得ノ權ハ入額所得者ノ其預定セシ約束ヲ執行ハサルニ因リ取消ス可シ得ヘシ但シ之カ爲メ書入質ノ權アル債主ノ權利ヲ害ス可カラス

第四十六條 「アラザ」財産ノ入額所得者若シ其貢賦ヲ納レサル時ハ其權ヲ失フ可シ但シ之カ爲メ書入質ノ權アル債主ノ權利ヲ害ス可カラス

第四十七條 官有ノ地ノ入額所得者若シ其地ニ付テノ租稅ヲ納レサル時ハ其租稅ノ額ニ充ル迄其地ノ入額所得ノ權ノ一部ヲ取上ケ之

ヲ賣拂フノミトス

第四十八條 又入額所得者十五年間其財産ヲ用ヒサル時ハ其權自ラ消散ス可シ

納貢地及ヒ「アラチ」土地ノ種類ノ名ノ入額所得者五年間其地ヲ耕耘セス捨テ置ク時ハ其入額所得ノ權ヲ失ヒ規則ニ循テ其權ヲ糶賣ニ爲ス可シ

○第四章 土地ノ權利甲ヨリ云ヘハ權利ト稱シ乙ヨリ云ヘハ義務ト稱ス可キニ因リ此書中或ハ譯シテ權利ト云ヒ或ハ譯シテ義務ト云フ

第四十九條 土地ノ義務トハ此不動産資益ノ爲メ彼不動産ニ負ハシムル義務ヲ云フ  
土地ノ義務ニ之ヲ設ケ定ムル證書ト土地ノ習慣トニ從ヒ規定ス可シ



第五十條 官府又ハ會社ノ開キタル溝渠ノ水ヲ用フルノ權限ハ其水ヲ灌ク可キ土地ノ大小ニ准ス可シ但シ此事ニ就テ設ケタル監事局ニ管スル法律ノ定メシ所ハ格別ナリトス

第五十一條 溝渠ヲ開造シタル者ハ其溝渠ノ水ヲ用ヒ又ハ之ヲ賣ルノ特權アリ

第五十二條 何人ニ限ラス水ヲ取ル場所ヨリ最モ遠キ土地ノ爲メ必要ナル水ヲシテ己レノ土地内ヲ通セシメサル可カラズ但シ之レカ爲メ裁判所ヨリ定メタル償ヲ得ヘク若シ其償ニ付キ争ノ起ル時ハ裁判所ヨリ可成丈損害ヲシテ少カラシムル様通水ノ道ヲ設ク可キ造營ノ方ヲ定ム可シ

然レモ器械ヲ備ヘ又ハ溝渠ヲ開キ己レノ土地ニ水ヲ引ク者ハ其下ノ土地ノ所有者ヲシテ強テ其水ヲ受ケシム可カラズ

第五十三條 家屋ノ下階ノ所有ハ上階ノ傾落スルヲ防クニ必要ナル造營ヲ爲ス可シ

若シ下階ノ所有者家屋ヲ堅牢ナラシムルニ必要ナル造營ヲ爲スヲ肯セサル時ハ其家屋中ニテ其者ニ屬スル部分ヲ賣拂フ可キヲ言渡スヲ得ヘシ

何レノ場合ニ於テモ急速ニ爲ス可キ造營ノ執行ハ至急吟味ノ裁判役ヨリ之ヲ言渡スヲ得ヘシ

第五十四條 上階ノ所有者ハ下階ノ害トナル可キ造營ヲ爲ス可カラズ

第五十五條 下階ノ所有者ハ天井ヲ修復ス可ク又其者ニ屬スルト思料ス可キ梁椽ヲモ修復ス可シ〇上階ノ所有者ハ其階ノ踏歩スル樓板ヲ修復ス可ク又梯子中ニテ下階ノ所有者ノ爲メ入用ナラサル所



ヨリ上ノ部分ヲ修復ス可シ

第五十六條 若シ造作ノ破壊スル時ハ下階ノ所有者己レニ屬スル階ヲ修復ス可シ若シ其修復ヲ爲サ、ル時ハ其者ニ屬スル階ヲ裁判所ノ命ニテ賣拂フヲ得ヘシ

第五十七條 何人ニ限ラス其隣人ヲシテ強テ塀牆ヲ造ラシム可カラズ又其隣人ノ塀牆ノ一部又ハ其塀牆所在ノ地ヲ強テ己レニ讓ラシム可カラズ

第五十八條 又塀牆ノ所有者ハ至重ノ原因アルニ非サレハ繞圍ヲ設ケシ隣人ノ土地ヲ害ス可キ様故ラニ其塀牆ヲ毀ツ可カラズ

第五十九條 何人ニ限ラス「メートル」(大約二「ピク」ト三分二)ヨリ少キ距離ニ於テ其隣地ヲ直瞰ス可キ窓ヲ造ル可カラズ

第六十條 其距離ハ窓ヲ造ル塀牆ノ外面ヨリ之ヲ計リ又ハ縁側及ヒ

其他家屋ノ突出セシ部分ノ外部ノ線ヨリ之ヲ計ル可シ

第六十一條 製造所并兵、蒸氣器械及ヒ其他何物ニ限ラス隣地ノ害トナル可キ諸般ノ工業造營ハ規則書ニ定メタル距離ト約束トニ循ヒ之ヲ設ク可シ

第六十二條 何人ニ限ラス土地ノ所有者ハ雨水及ヒ家内ニ用ヒタル水ヲ其土地又ハ往還ニ注流セシム可シ但シ此事ニ付テハ健康保全ノ規則ヲ遵守ス可シ

第六十三條 他人ノ所有スル土地ニ周圍ヲ繞環セラレシ己レノ土地ヨリ往還ニ出ル通行路ヲ設クル權ヲ行フニ付テハ裁判所ヨリ其通行路ヲ設クル權ヲ行フ方法ト其權ヲ行フニ付キ出ス可キ償高トヲ定ム可シ

○第五章 所有ノ權及ヒ物權ヲ得ルノ方法



第六十四條 所有ノ權及ヒ物權ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ得ヘシ

○義務ノ効

○生存中ノ贈遺

○遺物相續及ヒ遺囑ノ贈遺

○所有者ナキ財産ヲ己レノ有ニ歸スル權「アツプロアリアヤシヤン」

○主ニ因テ從ヲ併ス權「アクセツシヤン」

○先キ買ヲ爲ス權「プレアムプレヤン」

○期滿得免ノ權「プレスクリシヤン」

○第一款 義務ノ効

第六十五條 動産及ヒ不動産所有ノ權ハ之ヲ與フ可キ義務ノ効ニ因リ之ヲ得ヘシ但シ其財産義務ヲ負フタル者ノ所有タル時ニ限ル可シ

第六十六條 又動産ニ付テハ之ヲ引渡ス者其所有者ニ非サル時ト雖モ正當ノ名義ニテ引渡ヲ爲シ且之ヲ受取ル者モ亦正實ナルニ於テハ其引渡ニ因リ動産所有ノ權ヲ得ヘシ但シ眞ノ所有者其動産ヲ失ヒ又ハ之ヲ盜奪セラレタル時ハ後ニ之ヲ己レニ取戻サント訴フルノ權アリ

第六十七條 不動産ニ付テハ法律上ニ定メタル簿冊登記ノ法式ヲ行フタル上ニ非サレハ管係ナキ者ニ對シテ其所有ノ權及ヒ其物權ヲ得タルモノト爲ス可カラズ

第二款 生存中ノ贈遺

第六十八條 贈遺ト爲シタル動産及ヒ不動産所有ノ權ハ其贈遺ヲ爲シタルト之ヲ受ケタルトニ因テ之ヲ得ヘシ但シ贈遺ノ證書ヲ他ノ契約書ノ體裁ニ記セサル時ハ贈遺ヲ爲シタルト之ヲ受ケタルトトシ



公正ノ證書ニ記ス可ク若シ之ヲ記セサル時ハ其贈遺ノ効ナカル可  
シ  
アクトヲウタンチツク

第六十九條 動産ニ付テハ贈遺ヲ爲ス者現ニ之ヲ引渡シ贈遺ヲ受ク  
ル者之ヲ受取リタル時ハ公正ノ證書アラスト雖モ其贈遺ヲ成就シ  
タルモノトス

第七十條 若シ贈遺ヲ受クル者ノ之ヲ承諾スル前ニ贈遺者ノ死去シ  
又ハ行權ノ禁ヲ受クル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ

第七十一條 死去シタル贈遺者ノ遺物相續人又ハ行權ノ禁ヲ受ケタ  
ル贈遺者ノ名代人ハ其贈遺ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第七十二條 何人ニ限ラス其現時ノ債主ノ害トナル可キ贈遺ヲ爲ス  
可カラス

第七十三條 不動産ノ贈遺ハ贈遺ノ證書ヲ簿冊ニ登記ス可キ規則ニ

記シタル所ノ外他人ニ對シテ其効ナカル可シ

第七十四條 何人ニ限ラス其債主ノ權ヲ害シ「ワクウフ」地ノ名義ヲ以  
テ其財産ヲ人ニ讓渡ス可カラサル者ト定ム可カラス若シ斯ノ如ク  
定ムルト雖モ其効ナカル可シ

○第三款 遺物相續

第七十五條 遺物相續ハ死者ノ屬スル國ノ法律ニ循テ之ヲ規定ス可  
シ

第七十六條 然レモ「ワクフ」地又ハ納貢地ノ入額所得ノ權ヲ相續スル  
權利ハ本國ノ法律ニ循テ之ヲ規定ス可シ

第七十七條 遺囑贈遺ヲ爲スノ權及ヒ遺囑贈遺證書ノ書法ハ本人ノ  
屬スル國ノ法律ニ循テ之ヲ規定ス可シ

不動産ニ付テハ遺物相續人ノ爲メ財産ノ一部分ヲ遺シ置ク事及ヒ



遺囑贈遺者ノ隨意ニ爲スヲ得ヘキ財産ノ部分ヲ定ムル事等ノ爲メ  
不動産所有ノ權ヲ解除スルノ規則アリト雖正實ニ其不動産ヲ買  
入レタル者ノ權利及ヒ其不動産ニ付キ書入質ノ權アル債主ノ權利  
ヲ害ス可カラス

○第四款 所有者ナキ財産ヲ己レノ有ニ歸スル權

第七十八條 所有者ナキ財産ヲ己レノ有ニ歸スル權ニ因リ何人ニ限  
ラズ所有者ナキ財産ヲ最初ニ己レノ有ト爲シタル者ハ其所有ノ權  
ヲ得ヘシ

第七十九條 未タ開墾セサル官地ニ付テハ官ノ允許ヲ得タル上ニテ  
地方規則ニ循ヒ「アバチ」ヲ設ケ定ムルニ非サレハ之ヲ所有ト爲ス  
可カラズ

第八十條 然レモ右ノ地ヲ開墾シ又ハ之ニ植附ヲ爲シ又ハ之ニ家屋

ヲ造築セシ者ハ其開墾、植附、造營ヲ爲シタル部分ノ所有者トナル可  
シ然レモ最初ノ十五年間ニ於テハ其所有者トナリシ者五年間之ヲ  
用ヒサルニ因リ其所有ノ權ヲ失フ可シ

第八十一條 以前ノ所有者ヲ知ル可カラサル埋没セシ財貨ハ其土地  
ノ所有者ニ屬ス可シ

第八十二條 若シ埋没セシ財貨ヲ見出セシ土地ニ其所有アラサル時  
ハ之ヲ見出セシ者ニ其財貨ヲ屬ス可シ但シ何レノ場合ニ於テモ規  
則ニ循ヒ官ニ税額ヲ納メシム可シ

第八十三條 捕魚狩獵ニ管スル權利ハ別段ノ規則ヲ以テ之ヲ規定ス  
○第五款 主ニ因テ從ヲ併スノ權

第八十四條 河川ノ傍側ニ生スル漸積<sup>アリユヒナン</sup>ノ地ハ其傍側ノ地ノ所有者ニ  
屬ス可シ



第八十五條 河川ノ爲メ移去セラレタル土地及ヒ河川中ニ生シタル島洲ノ所有權ハ千二百七十四年ノ命令書ニ循テ規定ス可シ

第八十六條 湖沼ノ漸積ノ地ハ其湖沼ノ所有者ニ屬ス可シ

第八十七條 海岸ノ漸積ノ地ハ官ニ屬ス可シ

第八十八條 所有地ノ境界ヲ以前ニ復スル爲メノ外、海ヲ埋立ツルコト

ヲ許サス

第八十九條 土地ノ所有者ノ明許ヲ得テ別段其所有者ノ權利ヲ保チ

置ク可キ約束ナク其地ニ造營ヲ爲シ又ハ植附ヲ爲シタル者ハ其造

營ヲ爲シタル土地又ハ植附ヲ爲シタル土地ノ部分ノ所有者トナル

可シ

第九十條 土地ノ所有者別段己レノ權利ヲ保チ置ク可キ約束ナクシテ其造營又ハ植附ヲ爲ス可キコト明許シタルノ證アラサル時ハ唯

其土地ヲ貸渡シタルト看做シ其所有者ハ其造營ヲ毀チ又ハ樹木ヲ拔キ之ヲ移去スルヲ要シ或ハ其品物ノ價ト工價トヲ償ヒ其造營又ハ植附ヲ己レノ有ニ歸スルコト自由ナリトス

第九十一條 若シ其造營又ハ植附ヲ爲シタル者自ラ其土地ノ所有者タルヲ信思ス可キ道理アル時ハ其造營又ハ植附ヲ取除カシム可カラズ但シ此場合ニ於テハ眞ノ所有者評價人ノ說ニ從ヒ其土地ノ價ヲ増シタル高ヲ償フテ其造營又ハ植附ヲ己レノ有ニ歸スルコトヲ得ヘシ

第九十二條 若シ所有者ヲ異ニスル二箇ノ動産互ニ連合シテ之ヲ離分スル時ハ必ス損害ヲ生ス可キニ於テハ裁判所ヨリ公平ノ規則ニ循ヒ其動産ヲ離分スルニ付テノ損害ト所有者雙方ノ模様及ヒ其正實ナルヤ否トニ注意シ其離分ヲ言渡ス可シ



○第六款 不動産ニ付テノ先買ノ權

第九十三條 造營ヲ爲シ又ハ植附ヲ爲スチ承諾シテ己レノ地ヲ貸渡シタル者ハ未タ其貸渡期限ノ終リニ至ラスト雖モ其買主ニ望ミ通リノ價高ヲ拂ヒ先買ヲ爲スノ權アリ

第九十四條 他人ト共通シテ不動産ヲ所有スル者ハ其共通ノ所有者仲間ヨリ賣リタル部分ヲ己レヨリ以前ニ先買ノ權ヲ得タル者ヲ除クノ外總テ其他ノ者ヨリ先キニ買取ルノ權アリ但シ之カ爲メニハ其價高ト正當ナル費用高トヲ拂フ可シ

第九十五條 他人ト共通シテ不動産ヲ所有スル者ハ嘗テ其共通ノ所有者仲間ニシテ當時其買入人トナリシ者ニ對シ先買ノ權ヲ行フヲ得ヘシ但シ當時ノ共通ノ所有者仲間ヨリ其先買ノ權ニ因リ資益ヲ得ヘキヲ求ムル時ハ其資益ヲ得セシメサル可カラス

第九十六條 右先買ノ權ハ生存中ノ贈遺ヲ得タル者ニ對シ又ハ賣買交換ニ非サル方法ニ因リ不動産ヲ得タル者ニ對シ之ヲ行フ可カラ

第九十七條 共通シタル不動産ノ部分ニ付キ「ワシ」ノ設ニ因リ人ニ讓渡ス可カラサル所有ノ權ヲ得タル者ハ先買ノ權ヲ行フ可カラス然レモ其所有ノ權ヲ授與スル者ハ其授與ノ爲メ先買ノ權ヲ行フヲ得ヘシ

第九十八條 又不動産ヲ共通シテ所有スル者其買主ノ共通所有ノ權ヲ認ムル所爲ヲ行フタル時ハ先買ノ權ヲ行フ可カラス

第九十九條 不動産ニ隣レル地ノ所有者ハ先買ノ權ヲ行フ可キ者二人ニ次キテ其不動産先買ノ權ヲ行フヲ得ヘシ

第百條 裁判所ニ於テ賣拂ヲ爲シタル時ハ先買ノ權ヲ行フ可カラス



第一百一條 何レノ場合ニ於テモ先買ノ權アル者ハ其權ヲ行フヤ否ノ  
問チ受ケタルヨリ二十四時内ニ不動産ヲ引取ル可キノ意ヲ表ス可  
ク若シ其定期内ニ其意ヲ表セサル時ハ先買ノ權ヲ失フ可シ但シ其  
者ノ居所ノ隔リタル時ハ右二十四時ノ期限ニ相當ノ猶豫ヲ加フ可  
シ

○第七款 期滿得免ノ權

第二百二條 財産所有ノ權ト不動産書入質ノ權ヲ除キタル以外ノ物權  
トハ明カニ其所有者タル名義ヲ以テ五年間絶ヘス公ケニ妨ナク其  
財産ヲ自身ニ占有シ又ハ名代人ヲシテ占有セシメタルニ因リ之ヲ  
得ヘシ但シ之カ爲メニハ其占有者正當ノ名義アルコトヲ必要トシ若  
シ其占有者ニ正當ノ名義ナキ時ハ十五年間占有セシ後ニ非サレハ  
其所有ノ權ト其他ノ物權トヲ得ヘカラス

に

第一百三條 期滿所得ノ權ヲ行フ者ハ其財産ヲ己レニ讓リシ者ノ占有  
期限ヲ申立テ自己ノ資益ト爲スコトヲ得ヘシ

第一百四條 特ニ定メタル既往ノ時ト現今トニ於テ財産ヲ占有シタル  
ノ證アル時ハ其中間ノ時ニ於テモ亦之ヲ占有シタルト看做ス可シ  
但シ之ニ反シタル證アル時ハ格別ナリトス

第一百五條 納貢地ノ占有者其地ヲ開墾スル時ハ五年間之ヲ占有シタ  
ルニ因リ其地ノ入額所得ノ權ヲ得ヘシ

第一百六條 何人ニ限ラス己レノ有スル名義又ハ己レニ財産ヲ讓リシ  
者ノ有シタル名義ニ反キ期滿所得ノ權ヲ得ヘカラス故ニ賃銀ヲ出  
シテ土地ヲ借受クル者入額所得者預リ人借主又ハ此等ノ者ノ遺物  
相續人ハ其財産ニ付キ期滿所得ノ權ヲ得ヘカラス

第一百七條 然レモ正實ニ不動産書入質ノ權ヲ有スル債主ハ之ヲ質物



ト爲シタル負債者ノ五年間之ヲ占有セシ旨ヲ申立テ他人ノ訴ヲ抗拒スルヲ得ヘシ但シ之カ爲メニハ右ノ債主其負債者ヲ不動産ノ眞ノ所有者ナリト思フ可キ道理アルノ證ヲ立ツ可シ

第八八條 何人ニ限ラス預メ期滿得免ノ權ヲ拋棄ス可カラス然レヒ己レノ權ヲ自由ニ行フヲ得ヘキ者ハ既ニ得タル期滿得免ノ權ヲ拋棄スルヲ得ヘシ

第九九條 若シ期滿得免ノ權ヲ得ヘキ定期間ニ妨ヲ受ケタル時ハ其妨ヲ受ケタルヨリ以前ニ占有シタル時間ヲ期限ノ算計中ニ加フ可カラス

第一百條 占有者己レノ所爲ニ因ルト他人ノ所爲ニ因ルトヲ問ハス若シ其占有ノ權ヲ失フタル時ハ期滿得免ノ權ヲ得ヘキ定期間ニ妨ヲ受ケタルモノトス可シ

第一百一條 若シ眞ノ所有者占有者ヲ裁判所ニ呼出シ又ハ占有者ニ法式ニ適フタル督促書ヲ送り己レノ權利ヲ復セント爲シタル時ハ縱令其儘ニテ其訴訟ヲ繼行スルヲナシト雖モ占有者期滿得免ノ權ヲ得ヘキ定期間ニ妨ヲ受ケタルモノト爲ス可シ但シ眞ノ所有者其訴訟ヲ爲ス可キ期限ヲ經過セシメタルニ因リ終ニ其訴訟ヲ爲ス可キ權ヲ失フタル時ハ格別ナリトス

第一百二條 本人ト名代人トノ間ニ於テハ總テ其名代委任ノ證書ニ記スル諸件ニ付キ期滿得免ノ權ヲ得ヘカラス

第一百三條 不動産ニ付テノ期滿所得ノ權ハ法律ニ循ヒ己レノ權利ヲ行フヲ能ハサル者ニ對シ之ヲ得ヘカラス

第一百四條 又前條ニ記スル所ノ外五年以上ノ期滿得免ノ權ハ己レノ權利ヲ行フヲ能ハサル者ニ對シ之ヲ得ヘカラス



第一百五條 盜奪セラレシ品物又ハ遺失シタル品物ノ所有者ニ對シテハ三年ノ時間ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得ヘシ

第十六條 然レモ盜奪物又ハ遺失物ヲ正實ノ意ヲ以テ其類ノ品物ヲ賣買スル商人ヨリ買入レタル者又ハ公ケノ市場ニ於テ之ヲ買入レタル者ハ之ヲ取戻サントスル眞ノ所有者ニ對シ己レノ拂フタル代金ノ償還ヲ得ント要ムルノ權アリ

○第六章 所有ノ權及ヒ物權ヲ失フ事

第十七條 何人ニ限ラス左ノ場合ニ於ル外ハ財產所有ノ權ヲ失フ

トナカル可シ

第一 其所有ノ權他人ニ屬スルノ證分明ナル時

第二 法律上ニ定メタル場合ト法式トニ循ヒ債主ノ求ニ因リ財產所有ノ權ヲ奪ハル、時

第三 共同資益ノ爲メ財產所有ノ權ヲ奪ハル、時

第十八條 納貢地ノ入額所得ノ權ヲ得タル者又ハ「アバギー」ト爲シタル地ノ入額所得ノ權ヲ得タル者ハ道路溝渠ヲ造リ及ヒ其他共同資益ノ工業ヲ爲スニ必要ナル土地ヲ償ヲ得スシテ拋棄ス可シ但シ其入額所得ノ權ヲ設ケ定ムル證書ニ別段ノ契約ヲ記スル時ハ此例ニアラス

第十九條 前條ニ記シタル者ノ外總テ物權ヲ有スル者又ハ公正ノ證書ヲ有スル不動産ノ借主又ハ退去ノ期限ニ至ラサル前ニ強テ退去セシメラレタル不動産ノ借主ハ預メ至當ノ償ヲ得ヘシ

第二十條 然レモ不動産ヲ人ニ讓渡ス可カラサル「マーンモルト」ノ公舎ハ土地ヲ以テ其償ヲ得ヘシ○又納貢地又ハ「アバギー」ノ入額所得者其地ノ四分ノ一以上ノ入額所得ノ權ヲ失フタル時ハ土地ヲ以



テ其償ヲ得ヘシ

第二百一十一條 共同資益ノ爲メ不動産所有ノ權ヲ奪フコトハ命令書ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ其命令書ニハ假リニ左ノ諸件ヲ定ム可シ

第一 主タル工業ト之カ爲メ必要ナル附從ノ工業トヲ爲スニ入用ナル土地ノ大サ

第二 都會ニ於テハ右土地ノ畫線外ニ在テ堅牢平安ナル家屋ヲ

造ル可カラサル一區ノ地トラセト但シ其地モ亦所有ノ權ヲ奪フ土地ノ

中ニ包含ス可キモノナリ

第二百一十二條 右ノ命令書ハ裁判言渡書ヲ貼附スル法式ヲ以テ其州ノ「シユギリユ」廳ト裁判所ト所有ノ權ヲ奪フ可キ建物トニ之ヲ貼附ス可シ但シ其貼附書ニハ所有ノ權ヲ奪フ可キ不動産ノ圖面ヲ藏メタル場所ヲ記入ス可シ

又右ノ命令書ハ新聞紙ニ記入シテ公ケニ爲ス可シ

第二百一十三條 右圖面ハ八日間其州ノ「シユギリユ」廳ニ藏メ置キ且其間管係アル者ノ申立ヲ書留ム可キ調書ヲ作ル可シ

第二百一十四條 右ノ申立ハ之ヲ調書ニ書留メ且規則ニ循テ其裁斷ヲ爲ス可シ

第二百一十五條 所有ノ權ヲ奪フ可キ各區ノ土地ノ確定ノ圖面及ヒ行政局ヨリ出サントスル償高ノ書付ハ行政局ヨリ之ヲ其知ル所ノ管係人又ハ願出シタル管係人ニ送ル可シ又其圖面及ヒ書付ハ前ニ記シタル法式ニ循ヒ之ヲ貼附ス可シ

第二百一十六條 所有ノ權ヲ奪ハル可キ土地ノ所有者ハ八日內ニ入額所得者借主及ヒ其他ノ管係人ヲ右行政局ニ告知ス可シ若シ其告知ヲ爲サル時ハ此等ノ者ニ爲ス可キ償ヲ己レ一身ニ擔當ス可シ



第二百二十七條 右貼附ヲ爲シタル後ハ何時ニテモ行政局ヨリ土地ノ借主ニ退去ノ旨ヲ命スルコトヲ得ヘシ但シ貸借證書ニ別段ノ約束アル時ハ例外ナリトス

第二百二十八條 右退去ニ付キ土地ノ所有者ノ爲メ損失ヲ生スル時ハ官ヨリ渡ス所ノ償高中ニ其損失ノ償ヲ包含ス可シ

第二百二十九條 若シ行政局ニテ最終ノ貼附ノ時ヨリ六月内ニ管係人ト協議シテ財産徵收評價人ヲ招集セシメサル時ハ管係人ヨリ其招集ヲ裁判所ニ求ムルコトヲ得ヘシ

第三百十條 所有ノ權ヲ奪フ可キ財産ニ付キ爭ノ起ルコトアリト雖モ其所有ノ權ヲ奪フ手續ヲ止ム可カラス但シ裁判所ニテハ最モ先キニ訴出シタル者ノ求ニ因リ其財産ニ管係アリト述フル者ノ權利ヲ保護スル處置ヲ言渡スコトヲ得ヘシ

第三百十一條 管係人ハ財産徵收評價人ノ面前ニ出席ス可キ呼出狀ヲ受取リタルヨリ八日内ニ出席ス可ク其居所ノ距離ノ爲メ別段猶豫ヲ許ルス可カラス但シ其呼出狀ノ費用ハ財産所有ノ權ヲ奪フ者即チ行政之ヲ擔當ス可シ

第三百十二條 若シ管係人ノ出席セサル時ハ其權利ヲ取糺シタル上ニテ抗傳ノ儘確定ノ裁斷ヲ爲ス可シ

第三百十三條 管係人ハ償高ノ不當ナルヲ述フル爲メノ外其裁斷ノ取消ヲ訴出ス可カラス

第三百十四條 行政局ヨリ其徵收スル土地ノ眞ノ所有者タルニ疑ヒナキヲ思料セシ者ニ其償ヲ與ヘタル上ハ他ヨリ其處置ノ不當ナル旨ヲ訴出ス可カラス

第三百十五條 評價人ノ定メタル價高ハ遅クトモ裁斷ノ時ヨリ三月



内ニ之ヲ渡ス可ク又何レノ場合ニ於テモ行政局ニテ土地ヲ徵收スル以前ニ其價高ヲ渡ス可シ

第三百三十六條 徵收シ殘ルタル區地ニ接隣セシ土地ノ所有者ハ行政局ノ定メタル價ヲ以テ其區地ヲ買入ル可キヤ否ヲ八日內ニ申出ツ可キ旨ノ達ヲ受ケ若シ之ヲ買入レサルニ於テハ其所有者ヲ評價人ノ面前ニ呼出セシ上前ニ記シタル法式ニ循ヒ其所有ノ權ヲ奪フ可シ

第三百三十七條 都會内ニテ土地ヲ所有スル者其所有ノ權ヲ奪ハレ且其家屋建物モ亦破毀ス可キニ於テハ徵收シ殘シタル土地ヲ保ツニ及ハス

第三百三十八條 每歲裁判所ニ於テ一州毎ニ土地徵收評價人七十二名ヲ指定ス可シ

第三百三十九條 各會議ノ評價人ノ員數ハ裁判席ニテ鬪引ニ爲シタル者六名ニシテ其外ニ補助ノ評價人四名アル可シ但シ其補助ノ評價人ハ正員ノ評價人缺席シテ其名代ヲ爲ス時ニ非サレハ投言ヲ爲ス可カラス

第三百四十條 右ノ評價人ハ管係人ト同一ノ法式ヲ以テ之ヲ呼出シ裁判席ヲ開クヨリ四十八時前ニ其姓名ヲ管係人ニ告知ス可シ

第三百四十一條 裁判官一名其書記官ノ助ヲ得テ評價人ノ評價ニ從ヒ裁判ヲ言渡ス可シ

第三百四十二條 評價人ハ管係本人又ハ其名代人ノ申立ル所ヲ別段ノ手續ナク裁斷ス可シ

第三百四十三條 其裁斷ハ抗傳者ヨリ故障ヲ申立ツ可カラス又控訴ヲ爲ス可カラス



○第二篇 義務ノ事

○第一章 一切ノ義務

第四百四十四條 義務トハ法律上ニテ確定スル務ヲ云ヒ其目的ハ義務ヲ負ヒシ者ヲシテ特定メタル事ヲ爲サシメ又ハ特定メタル事ヲ爲スヲ止メ以テ他人ノ爲メ益ヲ得セシムルニ在リ

第四百四十五條 物ヲ與フ可キ義務アル時ハ其義務ヲ負フタル者ニ屬スル物ノ所有ノ權ヲ當然轉移ス可シ

第四百四十六條 人ノ爲メ物權ヲ設ケ爲ス可キノ義務アル時ハ亦其物權ヲ轉移ス可シ但シ之カ爲メ一ノ債主他ノ債主ヨリ先キニ償ヲ得ルノ權、不動産書入質ノ權財産引留ノ權ヲ害ス可カラズ

第四百四十七條 義務ノ中ニ契約ヨリ生スルモノアリ又ハ所爲ヨリ生スルモノアリ



第四百四十八條 確實ニシテ法ニ適シタル原由アルニ非サレハ義務ナシトス

第四百四十九條 義務ノ目的ハ人ノ爲シ能フ可ク且法ニ適セシ所爲タル可ク若シ然ラサル時ハ義務ノ効ナカル可シ又物ヲ與フ可キ義務アル時ハ其物賣買ヲ爲シ得ヘク且其種類ハ必ス之ヲ定メ其品質モ亦摸樣ニ從ヒ之ヲ定メ得ヘキ物タル可シ

第四百五十條 若シ二箇中ノ一ヲ擇ムヲ得ヘキ義務アル時ハ義務ヲ負フタル者之ヲ擇ムヲ得ヘシ但シ法律又ハ契約上ニ別段ノ定メアル時ハ格別ナリトス

第四百五十一條 若シ義務ヲ行フ方法中ノ一箇ヲ爲シ能ハサルニ至リシ時ハ其他ノ方法ヲ以テ義務ヲ行フ可シ

第四百五十二條 若シ一箇ノ義務ヲ行ハサル時ハ其過代トシテ更ニ他

ノ義務ヲ行フ可キヲ法律上ニ定メ又ハ契約上ニ定メタル時ハ義務ヲ行ハシム可キ者之ヲ行フ可キ者ヲシテ主タル義務ヲ行ハシメ或ハ過代ノ義務ヲ行ハシムルヲ自由ナリトス然レモ義務ヲ行フ可キ者主タル義務ヲ相違ナク執行フ時ハ義務ヲ行ハシム可キ者之ニ代ヘテ過代ノ義務ヲ行ハシム可カラズ但シ主タル義務ヲ行フヲ遅延セシノミニ因リ過代ノ義務ヲ行ハシム可キノ言渡アル時ハ格別ナリトス

第四百五十三條 若シ義務ヲ行ハシム可キ者前條ニ記シタル擇ミヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テ義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ因リ之ヲ行フ方法中ノ一箇ヲ爲シ能ハサルニ至リシ時ハ義務ヲ行ハシム可キ者其他ノ爲シ能フ可キ方法ヲ以テ其義務ヲ行ハシメ又ハ右一箇ノ方法ヲ爲サシムル能ハサルヨリ生シタル損失ノ償ヲ得ルヲ自由ナリトス



第五百五十四條 若シ義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ因リ二箇ノ方法ヲ共ニ爲シ能ハサルニ至リシ時ハ義務ヲ行ハシム可キ者甲ノ方法ヲ爲サシムルヲ能ハサルニ付テノ損失ノ償ヲ得又ハ乙ノ方法ヲ爲サシムルヲ能ハサルニ付テノ損失ノ償ヲ得ルヲ自由ナリトス

第五百五十五條 若シ有期ノ義務ナル時ハ義務ヲ行フ可キ者其期ニ至ラサル前ニ義務ヲ行フヲ得ヘシ但シ法律ノ趣意又ハ契約ノ目的之ニ反シタル時ハ格別ナリトス

第五百五十六條 若シ義務ヲ行フ可キ者家資分散ヲ爲シ又ハ己レノ所爲ニ因リ義務ヲ行フニ付テノ保證ヲ減損シタル時ハ有期ノ義務ト雖モ直チニ之ヲ行ハサルヲ得ス

第五百五十七條 義務中ニ將來ノ事件又ハ未必ノ事件ニ管スルモノアリ或ハ其事件ニ因テ義務ヲ生シ或ハ義務ヲ確定シ或ハ義務ノ生スルヲ防キ或ハ義務ヲ消散セシム

第五百五十八條 未必ノ事件ノ生スル時義務ヲ解除ス可キ約束アル場合ニ於テ其事件ノ確實トナル時ハ義務ノ効ヲ失ヒ又ハ義務ヲ取消ス可シ又未必ノ事件ノ生スルニ至ル迄義務ノ執行ヲ停止ス可キ約束アル場合ニ於テ其事件ノ確實トナル時ハ初メヨリ其約束ヲ爲ササル者ト同視ス可シ

第五百五十九條 未必ノ事件ノ現ニ生シタル時ハ義務ト其義務ヨリ生スル權利トヲ看テ嘗テ其事件ニ預料セシ時ヨリ存在シタルモノト做シ又ハ其時ヨリ効ナキモノト看做ス可シ

第六十條 義務ヲ生セシム可キ事件ノ現ニ生スル前ニ其義務ヲ執行フ能ハサルニ至リシ時ハ其事件ノ現ニ生スルヲアリト雖モ其効ナカル可シ

第六十條 義務ヲ生セシム可キ事件ノ現ニ生スル前ニ其義務ヲ執行フ能ハサルニ至リシ時ハ其事件ノ現ニ生スルヲアリト雖モ其効ナカル可シ



第六十一條 義務ヲ生セシムル契約ニ因リ其義務ヲ行ハシム可キ者數人物ヲ受取ル爲メ互相ノ名代ノ權ヲ互ニ授附スル時ハ其數人ヲ連帶シテ義務ヲ行ハシム可キモノトス但シ此場合ニ於テハ名代ノ規則ニ循フ可シ

第六十二條 義務ヲ行フ可キ者數人連帶シタルコトヲ契約ニ定メ又ハ法律上ニ定メタル時ノ外ハ其義務ヲ行フ可キ各人其義務ノ全部ヲ己レニ擔當スルニ及ハス

第六十三條 若シ契約又ハ法律上ニ義務ヲ行フ可キ者數人ノ連帶シタルコトヲ定メタル時ハ其數人ヲ互相ノ保證人ナリト看做シ且物ヲ渡ス爲メ互相ノ名代人ナリト看做ス可シ

第六十四條 前條ノ場合ニ於テハ保證ノ契約及ヒ名代ノ契約ノ規則ヲ通シ用フ可シ

第六十五條 義務ヲ行ハシム可キ者ハ連帶シテ義務ヲ行フ可キ者數人ヲ同時ニ訴ヘ又ハ各自ニ訴フルコト自由ナリトス但シ其數人中ニ有期ノ義務ヲ負フタル者又ハ別段ノ約束ヲ爲シタル者アル時ハ格別ナリトス

第六十六條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人ニ對シ義務ヲ行フ可キノ督促ヲ爲シ且之ヲ訴フル時ハ其他ノ連帶シタル者ニ對シ其督促及ヒ訴ヲナスノ効アリトス

第六十七條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人ハ己レノ所爲ニ因リ他ノ者ノ義務ヲ重劇ナラシム可カラス

第六十八條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ各人ハ己レ一身ノ固有ノ權利ト他ノ者ト共通シテ有スル權利トヲ申立テ原告ノ訴ニ抗拒スルコトヲ得ヘシ



第六十九條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人其義務ヲ相殺スルヲ得タルト雖モ連帶セシ他ノ者其旨ヲ申立テ原告ノ訴ニ抗拒ス可カラズ○又其數人中ノ一人其義務ヲ權利ト混同スルヲ得タルト雖モ連帶セシ他ノ者ハ其一人ノ擔當スル義務ノ部分ヲ減セント申立ルヲ得ヘキノミトス

第七十條 又連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人其義務ノ釋放ヲ得タルト雖モ連帶シタル他ノ者ハ其一人ノ擔當スル義務ノ部分ノ釋放ヲ申立ルヲ得ヘキノミトス但シ義務ノ全部ノ釋放ヲ得タル旨ヲ申立ルニハ其證アルヲ必要トス

第七十一條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人自カラ其義務ヲ盡シ又ハ其義務ヲ權利ト渾同シタル時ハ連帶シタル他ノ數人ニ對シ各々其擔當ス可キ部分ヲ己レニ償ハシム可キノ訴ヲ爲スヲ得

得ヘシ○若シ其數人中ニ其償ヲ爲スヲ能ハサル者アル時ハ其者ノ部分ヲ平等ニ他ノ者ニ割附ク可シ

七十二條 若シ事柄ノ種類ニ因リ又ハ義務ノ目的ニ因リ數人ニテ其義務ヲ分チ行フヲ能ハサル時ハ連帶シタル各人其義務ノ全部ヲ擔當ス可シ但シ其全部ヲ自カラ盡クシタル者ハ他ノ者ニ對シ其償ヲ得ヘキノ訴ヲ爲スヲ得

七十三條 若シ義務ヲ行フ可キ者其義務ノ一部ヲ行フヲ肯セサル時ハ義務ヲ行ハシム可キ者損失ノ償ヲ得テ契約ノ取消ヲ要メ又ハ其行ハサル義務ノ一部ニ於ル損失ノ償ヲ要ムルヲ自由ナリトス

七十四條 然レヒ義務ヲ行ハシム可キ者ハ其時ノ模様ニ因リ義務ヲ行フ可キ者ノ費用ヲ以テ其者ノ擔當セシ事ヲ行フ可キ裁判所



ノ允許ヲ得又ハ契約ニ背キ作リシ物ヲ毀ツ可キ裁判所ノ允許ヲ得  
ヘシ

第七十五條 特ニ定メタル物件ヲ渡ス可キ義務アリテ其契約ヲ爲  
シタル時又ハ其契約ヲ爲シタル後其義務ヲ行フ可キ者右ノ物件ヲ  
所有シ且ツ其物件ニ付キ別ニ物權ヲ得タル者アラサル時ハ假令義  
務ヲ行フ可キ者其物件ヲ渡スコト肯セスト雖モ義務ヲ行ハシム可  
キ者裁判所ノ允許ヲ以テ其物件ヲ己レノ有ト爲スコト得ヘシ

第七十六條 不動産所有ノ權ヲ移ス契約ヲ取消スト雖モ書入質ノ  
權ヲ官署ノ簿冊ニ記入セシメタル債主ノ權利ヲ害ス可カラズ  
第七十七條 義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ因リ其義務ノ全部又ハ一  
部ヲ行フコトナク又ハ之ヲ行フコトヲ遅延シタル時ノ外ハ其者ヲシテ  
損失ノ償ヲ爲サシム可カラズ

第七十八條 又義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ之ヲ行フ可キ者ニ其督  
促ヲ爲シタル上ニ非サレハ損失ノ償ヲ爲サシム可カラズ

第七十九條 其損失ノ償高ハ義務ヲ行ハシム可キ者ノ受ケタル損  
ト失フタル益トヲ合算セシ高タル可シ但シ右損失ハ義務ヲ行ハサ  
ルヨリ直チニ生セシ所ノモノニ限ル可シ

第八十條 又義務ヲ行フ可キ者ニ詐僞アラサル時ハ其損失ノ償高  
ヲ初メ契約ヲ結ヒシ時當然預料シ得タル所ノミニ限ル可シ  
第八十一條 契約又ハ法律上ニ於テ義務ヲ行ハサルニ付テノ損失  
償ノ高ヲ定メタル時ハ裁判役其高ヲ増減ス可カラズ

第八十二條 若シ金高ヲ渡ス可キ義務ヲ行ハサル時ハ之ヲ裁判所  
ニ訴出セシ日ヨリ其利息ヲ拂フ可シ但シ契約又ハ商業上ノ習慣又  
ハ法律上ニ別段ノ定メアル時ハ此例ニアラス



第八十三條 其利息ノ高ハ民法上ノ事ニ付テハ裁判役金銀ノ相場ニ從ヒ之ヲ定ム可シ但シ其利息高ハ百分ノ十二ニ過ク可カラス

ス可シ

第八十四條 商法上ノ事ニ付テハ其利息高ヲ常ニ百分ノ十二ト爲

ス可シ

第八十五條 契約ニテ定ムル利息高ハ百分ノ十二ニ過ク可カラス

第八十六條 一年ニ足ラサル時間ノ利息ニ付テハ更ニ其利息ノ利息ヲ得可カラス又之ヲ得ント訴フ可カラス

第八十七條 然レモ商業取引ノ利息高ハ各地ノ相場ニ從テ變更スルヲ得ヘク又其取引ニ於テ利息高ヲ元金ト爲シ更ニ其利息ヲ得

ルコトハ商業ノ習慣ニ從テ之ヲ爲ス可シ

○第二章 契約ヨリ生スル義務

第八十八條 義務ヲ負フ可キ者ニ契約ヲ爲シ得ルノ權アリテ且其

者適理ノ承諾ヲ爲シタルニ非サレハ契約ヨリシテ義務ヲ生スルコトナカル可シ

第八十九條 契約ヲ爲シ得ルノ權ハ特ニ定メタル契約ノ種類ニ限

ルモノアリ又ハ種類ノ如何ナルヲ問ハス總テノ契約ニ管スルモノ

アリ

第九十條 特ニ種類ヲ定メタル契約ヲ爲シ得ルノ權ト諸般ノ契約

ヲ爲シ得ルノ權トハ其契約ヲ爲ス人ノ本國ノ法律ヲ以テ之ヲ規定

ス可シ

第九十一條 若シ契約ヲ爲ス者ニ其契約ヲ爲シ得ヘキノ權アラサ

ル時ハ縱令其契約ノ爲メ其者ニ損害ノ生スルコトナシト雖モ其契約

ノ効ナカル可シ○契約ヲ爲シ得ヘキノ權アラサル者其契約ヲ爲シ

タルニ付キ之ヲ取消シタル時ハ其權アル一方ノ者其契約ノ如ク執



行フタルニ因リ其權ナキ者ノ己レニ得タル利益ノミチ其權アル者ニ算還ス可シ

第九十二條 契約ヲ爲シ得ルノ權アル者ハ其權ナキ一方ノ者ニ對シ其契約ノ効ナキ旨ヲ申立テ其者ノ訴ニ抗拒ス可カラス

第九十三條 錯誤ニテ承諾ヲ爲シ又ハ暴行詭欺ニ因リ承諾ヲ爲サシメタル時ハ其承諾ノ効ナカル可シ

第九十四條 契約ヲ爲スニ付テノ要領ヲ錯誤シ承諾ヲ爲シタル時ハ其承諾ノ効ナカル可シ

第九十五條 又暴行ヲ以テ承諾取消ノ原因ト爲スニハ精神ノ靜定セシ人ヲシテ其心ヲ感動セシメ畏懼ノ念ヲ生セシム可キ暴動ノ時ニ限ル可シ但シ此事ニ付テハ其者ノ年齢、男女、摸樣等ニ注意ス可シ

第九十六條 甲者ヨリ乙者ニ對シ詭欺ヲ爲シタルニ非サレハ乙者

苟モ初メヨリ契約ヲ爲スチ承諾セサル可キヲ明白ナル時ハ其詭欺ヲ以テ承諾ヲ取消スノ理由ト爲ス可シ

第九十七條 疾病、酩酊又ハ其他ノ偶然ノ摸樣ハ裁判所ニ於テ承諾ヲ取消スノ理由ト看做スヲ得ヘシ

第九十八條 當然ノ承諾ヲ爲サル旨ヲ證シ得タル者ハ其契約ヲ執行ヒ又ハ其取消ヲ訴フルヲ自由ナリトス

第九十九條 不動産所有ノ權ヲ移ス契約ヲ取消スト雖モ書入質ノ權ヲ官署ノ簿冊ニ記入セシメタル債主ノ權利ヲ害ス可カラズ但シ其債主ノ正實ナル時ニ限ル可シ

第二百條 若シ甲者乙者ヨリ名代ノ證書ヲ得ルヲナク乙者ノ爲メ丙者ト契約ヲ爲シタル時ハ乙者其契約ヲ確定シ又ハ之ヲ許認スルヲ

肯セサルヲ自由ナリ



第二百一條 凡ソ契約書ハ其文詞ノ真義如何ヲ問ハス雙方ノ定メタル目的ナリト思料シ得ヘキ所ト其契約ノ種類及ヒ習慣トニ從テ之ヲ解釋ス可シ

第二百二條 義務ヲ保持シ又ハ之ヲ確定ス可キト否トヲ定ムル未必ノ條件ニ管シタル約束ノ義意ヲ解釋スル方法モ亦前條ト同シカル可シ

第二百三條 若シ契約ノ文意ニ疑アル時ハ義務ヲ行フ可キ爲メ益トナル可キ様之ヲ解釋ス可シ

第二百四條 契約ハ之ヲ結ヒシ雙方ノ外更ニ他人ノ益トナル可カラズ然レモ契約ヲ爲シタル者ノ債主ハ其負債者ノ諸財産ヲ以テ負債ノ償ニ充テ用フ可キ權アルニ因リ其負債者ニ代リテ右契約又ハ其他ノ原由ヨリ生スル權利ヲ行フヲ得ヘシ但シ其負債者一身ノ固

有ノ權利ハ格別ナリトス

第二百五條 契約ハ之ニ關係ナキ者ノ爲メ害ヲ爲ス可カラス又其契約ノ日附確的ナル時ニ非サレハ其契約ヲ申立テ之ニ關係ナキ者ノ訴ニ抗拒ス可カラス

第二百六條 義務ヲ行ハシム可キ者ハ之ヲ行フ可キ者ノ己レノ權利ヲ害スルタメ爲シタル契約ヲ取消サルムルノ權アリ又義務ヲ行ハシム可キ者ハ之ヲ行フ可キ者ノ己レノ權利ヲ害スルタメ人ヨリ贈遺ヲ受クルヲ承諾シ又ハ其贈遺ヲ拋棄スルヲ承諾シタル時ハ其承諾ヲ取消サシムルノ權アリ

○第三章 所爲ヨリ生スル義務

第二百七條 甲者其意ヲ以テ乙者ニ資益ヲ得セシメタル時ハ乙者其己レニ得タル資益ノ高ニ充ル迄甲者ノ爲シタル費用ト其受ケタル



損失トテ償フ可シ

第二百八條 己レニ屬セサル物件ヲ受取リタル者ハ之ヲ還サ、ル可  
カラス

第二百九條 若シ其者不正ノ意ヲ以テ己レニ屬セサル物件ヲ受取リ  
タル時ハ其物件ヲ失ヒタルノ責ニ任シ且其物件ヨリ生シタル利益  
ヲ償還ス可シ

第二百十條 然レモ法律上ニ定メタルト否トテ問ハス一箇ノ義務ニ  
因テ物件ヲ渡シタル時ハ其受取人之ヲ還スニ及ハス

第二百十一條 若シ甲者錯誤シテ乙者ノ義務ヲ自カラ丙者ニ盡クシ  
丙者正實ノ意ヲ以テ其物件ヲ受取リ其證書ノ滅盡シタル時ハ丙者  
ヨリ之ヲ還スニ及ハス但シ甲者ハ乙者ニ對シ其償ヲ得ント要ムル  
ヲ得ヘシ

第二百十二條 前ニ記シタル摸樣ニ於テ所爲ヨリ生スル義務ハ連帶  
シタルモノト爲ス可カラス

第二百十三條 後ノ數條ニ記列スル摸樣ニ於テ生シタル義務ハ連帶  
シタルモノト爲ス可シ

第二百十四條 法律上ニテ罰スル總テノ犯罪人ハ其犯罪ヨリ生スル  
損害ヲ償フ可シ但シ犯罪人其年齢ニ因リ又ハ其他ノ原由ニ因リ己  
レノ爲シタル所行ヲ本心ニ知ラサル時ハ格別ナリトス

第二百十五條 又甲者其管守ス可キ乙者ヲ監スルニ怠リ又ハ乙者ノ  
過失、懈惰、疎忽ニ因リ丙者ノ爲メ損害ヲ生スル時ハ甲者其損害ヲ償  
フ可シ

第二百十六條 又僕婢其主長ヨリ命セラレタル職務ヲ行フニ當リ人  
ニ損害ヲ加ヘタル時ハ主長其損害ヲ償フ可シ



第二百十七條 又獸類ノ所有者其管守スル獸類ノ人ニ損害ヲ加ヘ又ハ其獸類ノ逃逸シテ人ニ損害ヲ加ヘタル時ハ其損害ヲ償フ可シ

第二百十八條 己レノ家産又ハ己レノ健康ヲ害スルノ恐ナク人ノ損害ヲ防キ得ヘキニ其損害ヲ防クヲ肯セス或ハ防クニ怠リ又ハ之ヲ防クノ方便ヲ授クルヲ肯セス或ハ怠リタル者ハ其損害ノ責ニ任ス可シ

○第四章 法律上ヨリ生スル義務

第二百十九條 別段法律上ニ定メタル所ノミヨリ生スル義務ハ連帶セシモノト爲ス可カラズ但シ連帶ノ事ヲ別段法律上ニ定メタル時ハ格別ナリトス

第二百二十條 血屬ノ卑屬親ハ其尊屬親ニ養料ヲ給ス可ク又姻屬ノ卑屬親モ結縁ノ間ハ其尊屬親ニ養料ヲ給ス可シ

第二百二十一條 又尊屬親ノ卑屬親ニ於ル及ヒ夫婦互相ノ間ニ於ルモ亦前條ニ同シ

第二百二十二條 養料ハ之ヲ給スル者ノ家産ト之ヲ得ル者ノ要スル所トニ准シ其高ヲ定ム可シ

第二百二十三條 養料ハ必ス毎月前渡ニ爲ス可シ

○第五章 義務ノ消散スル事

第二百二十四條 義務ハ左ノ諸件ニ因テ消散ス可シ

- 義務ヲ行フ事
- 義務ヲ解除スル事
- 義務ヲ釋放スル事
- 義務ヲ更改スル事
- 二箇ノ義務互ニ相殺スル事



○權利ト義務ト渾同スル事  
○期滿免除ノ權「プロレヌクリ  
プシヨソ」

○第一款 義務ヲ行フ事

第二百二十五條 若シ義務ノ種類ニ因リ其義務ヲ行ハシムル者之ヲ行フ可キ本人ヲシテ自カラ之ヲ行ハシムルヲ欲スル旨ヲ知り得ヘキ時ハ其本人自カラ之ヲ行フ可シ

第二百二十六條 若シ義務ヲ行フ爲メ物件ヲ渡ス可キ時ハ縱令義務ヲ行ハシムル者又ハ之ヲ行フ可キ者ノ意ニ出テスト雖モ他人ヨリ其物件ヲ渡スヲ得ヘシ

第二百二十七條 甲者義務ヲ行フ可キ乙者ニ代テ義務ヲ行ハシム可キ丙者ニ物件ヲ渡シタル時ハ甲者ヨリ乙者ニ對シ己レノ渡シタル物件ノ高ニ充ル迄ノ高ヲ償還セシムルノ訴ヲ爲スヲ得ヘシ

第二百二十八條 前條ノ甲者ハ左ニ記列スル場合ニ於テハ己レノ新タニ得タル權利ヲ保證スル爲メ以前ノ權利ト同シキ保證ヲ得ヘシ

第一 丙者甲者ヨリ物件ヲ受取リタル時公正ノ證書ヲ以テ以前ノ保證ヲ甲者ニ移スヲ承諾シタル時

第二 甲者乙者ノ共ニ義務ヲ負ヒ又ハ乙者ノ爲メ義務ヲ負フタル時

第三 甲者己レニ優リタル債主先取ノ權又ハ不動産書入質ノ權「プロプライエー」ヲ有スル丙者ニ物件ヲ渡シタル時又ハ甲者不動産ヲ買入ル其代金ヲ右不動産ニ付キ書入質ノ權ヲ有スル丙者ニ渡シタル時

第四 法律上ニテ甲者ヲシテ丙者ノ權ニ代ラシム可キヲ特ニ定メタル時



第二百二十九條 若シ甲者義務ヲ行フ可キ乙者ノ意ニ非スシテ丙者ニ物件ヲ渡シタル時乙者右物件ヲ渡スニ及ハサル權アルノ證ヲ立ルニ於テハ甲者ノ償還ヲ要ムル訴ノ全部又ハ一部ニ抗拒スルノ權アリ

第二百三十條 又義務ヲ行フ可キ乙者ハ義務ヲ行ハシム可キ丙者ノ承諾ヲ得スト雖モ丙者ニ渡ス可キ物件ヲ己レニ給與セシ甲者ヲ以テ前ト同シキ保證ヲ移サシムルヲ得ヘシ但シ之カ爲メニハ右物件ノ給與ト其用法トチ公正ノ證書ヲ以テ證スルヲ必要トス

第二百三十一條 法ニ適シテ物件ヲ渡ス爲メニハ義務ヲ行フ可キ者ニ其物件所有ノ權ヲ人ニ移ス可キ權アリテ且義務ヲ行ハシム可キ者ニ之ヲ受取ル可キ權アルヲ必要トス

第二百三十二條 然レモ物件所有ノ權ヲ人ニ移ス可キ權ナキ者ヨリ義務ヲ行ハシム可キ者ニ物件ヲ渡シ其權ナキ者ノ爲メ損害アラサハ其者ヨリ權利ヲ讓受ケタル者ノ爲メ之ヲ行フ可シ

第二百三十三條 義務ハ之ヲ行ハシム可キ者又ハ其特別ノ名代人又ハ其者ヨリ權利ヲ讓受ケタル者ノ爲メ之ヲ行フ可シ

第二百三十四條 義務ヲ行フ方法ハ雙方ノ預定シタル如クナル可ク又義務ハ約定シタル時ト地トニ於テ之ヲ行フ可シ又義務ハ其一部ノミヲ行フ可カラズ但シ特別ナル場合ニ於テ義務ヲ行ハシム可キ者ノ爲メ至重ノ損害アラサル時ハ裁判役義務ヲ行フニ付テノ期限ヲ定メ又ハ相當ノ猶豫ヲ許ルスト得ヘシ

第二百三十五條 特ニ指定シタル物件ヲ渡ス可キ地ハ其物件所在ノ地タル可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第二百三十六條 又貨幣或ハ種類ノミヲ指定シタル物件ニ付テハ義



務ヲ行フ可キ者ノ住所ニ於テ之ヲ渡スコトヲ契約ニタルト看做ス可シ

第二百三十七條 義務ヲ行フ費用ハ之ヲ行フ可キ者擔當ス可シ

第二百三十八條 數箇ノ義務アリテ其義務ヲ行フ可キ者ヨリ物件ヲ渡シタル時ハ其物件ヲ其者ノ特ニ定メタル義務ヲ行フニ充テ用フ可シ又其者特ニ之ヲ定メサル時ハ其者ノ最モ速カニ盡クスコトノ必要ナル義務ヲ行フニ充テ用フ可シ

第二百三十九條 義務ヲ行フ可キ者ヨリ物件ヲ渡シタル時ハ先ツ義務ノ費用、利息、年金ヲ償フニ充テ用ヒ然ル後ニ主タル義務ヲ行フニ充テ用フ可シ

第二百四十條 事ヲ爲ス可キノ義務アル者ハ之ヲ爲サント提供スルノミニテ當然其義務ヲ免ル可カラス然レモ其提供ヲ爲シタル時義

ヲツフル

務ヲ行ハシム可キ者之ヲ承諾セサルニ因リ義務ヲ行フ可キ者ノ爲メニ損害ヲ生シタルニ於テハ義務ヲ行ハシム可キ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得ヘシ

第二百四十一條 然レモ動産ヲ渡ス可キ義務ヲ行フ可キ時ハ其義務ヲ行フ可キ者訴訟法ノ規則ニ從ヒ提供ヲ爲スニ因リ其義務ヲ免ルコトヲ得ヘシ

第二百四十二條 又不動産ヲ渡ス可キ義務ヲ行フ可キ時ハ其義務ヲ行フ可キ者之ヲ行ハシム可キ者ヲ裁判所ニ呼出シ其出席ノ有無ヲ問ハス裁判所ヨリ其不動産ノ附托ヲ受ク可キ者ヲ任スル言渡ヲ得タルニ因リ其義務ヲ免ル可シ

○第二款 義務ヲ解除スル事

第二百四十三條 義務ノ生シタル後之ヲ行フコト能ハサルニ至リシ時



ハ其義務ヲ解除シテ之ヲ消散セシム可シ

第二百四十四條 若シ義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ因リ之ヲ行フ不能ハサルニ至リシ時又ハ其者之ヲ行フ可キノ督促ヲ受ケタル後之ヲ行フ不能ハサルニ至リシ時ハ其義務ヲ行フ可キ者損失ノ償ヲ擔當ス可シ

第二百四十五條 義務ヲ行フ不能ハサルニ至リシニ因リ其義務ヲ解除シタル時ハ其義務ト相對シタル義務ヲモ亦解除ス可シ但シ正當ノ原因ナクシテ得タル利益アル時ハ互ニ償還ヲ爲ス可ク且正實ニ不動産書入質ノ權ヲ得タル債主ノ權利ヲ害ス可カラス

○第三款 義務ヲ釋放スル事

第二百四十六條 人ニ贈遺ヲ爲ス可キノ權アル者ヨリ自己ノ意ヲ以テ義務ヲ釋放シタル時ハ其義務消散ス可シ

第二百四十七條 義務ヲ行フ可キ者其義務ノ釋放ヲ得タル時ハ保證人モ亦其義務ノ釋放ヲ受ク可シ

第二百四十八條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人其義務ノ釋放ヲ得タル時ハ其一人ノ部分ノミニ付キ其釋放ヲ爲シタルモノト看做シ其部分ノミヲ消散セシム可シ

第二百四十九條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ニテ己レノ部分ノ釋放ヲ得サル者ハ後ニ其數人中ニ義務ヲ行フ不能ハサル者アル時ニ至リ其者ノ部分ヲ他ノ數人ニ分配スル爲メノ外既ニ釋放ヲ得タル者ニ對シ訴ヲ爲ス可カラス

第二百五十條 保證人ヲ釋放シタル時ハ其保證ノ義務ノミヲ釋放シタルモノト看做ス可シ

第二百五十一條 釋放ヲ得タル保證人ノ嘗テ其保證ノ義務ヲ承諾セ



シテ若シ他ノ保證人ノ保證ノ義務ヲ承諾シタルヨリ以前ナル時ハ  
他ノ保證人ヨリ其釋放ヲ得タル保證人ニ對シテ訴ヲ爲スコトヲ得ヘ  
シ

○第四款 義務ノ更改スル事

第二百五十二條 義務ノ更改シタル時ハ從來ノ義務消散シ之ニ代テ  
新ナル義務ヲ生ス

第二百五十三條 義務ノ更改ハ契約ヨリ生ス

第二百五十四條 左ノ場合ニ於テハ義務更改ス可シ

第一 義務ヲ行フ可キ者ト之ヲ行ハシム可キ者ト協議シテ從來  
ノ義務ヲ消散セシメ之ニ代ヘテ更ニ新ナル義務ヲ生セシメシ  
時又ハ從來ノ義務ノ原因ヲ變更セシ時

第二 義務ヲ行フ可キ者ト承諾ノ有無ヲ問ハス義務ヲ行ハシ

ム可キ乙者ト管係ナキ丙者ト協議シテ其甲者ヲ釋放シ丙者之  
ニ代テ義務ヲ行フ可キ者トナリシ時又ハ甲者丙者ヲシテ己レ  
ニ代テ義務ヲ行ハシム可キコト乙者ニ承諾セシメタル時  
第三 右ノ甲者ト乙者ト協議シテ從來ノ義務ヲ取消シ甲者丙者  
ノ承諾ヲ得タル上其丙者ノ利益ノ爲メ更ニ他ノ義務ヲ行フ可  
キコトヲ定メタル時

第二百五十五條 新ニ生シタル義務ヲ行ハシムルニ付テハ從來ノ義  
務ヲ行ハシムルニ付テノ保證ヲ移ス可カラス但シ契約又ハ模様ニ  
因リ雙方ノ者ニ別段ノ意見アルコトヲ知ル可キ時ハ格別ナリトス

第二百五十六條 然レモ契約ハ左ノ効ノミヲ生ス可シ  
第二百五十四條第一ノ場合ニ於テハ義務ヲ行フ可キ者ト之ヲ行ハ  
シム可キ者ト協議シテ債主ノ他ノ債主ヨリ先取ノ權不動産書入質



ノ權、財產引留ノ權等ノ如キ從來ノ義務ニ付テノ物ニ管スル保證ラガレエル、チ新ナル義務ニ移スコトヲ得ヘシ但シ之カ爲メ其義務ニ管係ナキ者ノ權利ヲ害ス可カラス

同條第二ノ場合ニ於テハ義務ヲ行フ可キ甲者ノ承諾ノ有無ヲ問ハス義務ヲ行ハシム可キ乙者ト管係ナキ丙者ト協議シテ從來ノ義務ニ付テノ物ニ管スル保證ヲ新ナル義務ニ移スコトヲ得ヘシ又同條ノ第三ノ場合ニ於テハ契約ヲ爲ス三名同上ノ協議ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第二百五十七條 右三箇中何レノ場合ニ於テモ連帶シテ義務ヲ行フ可キ者及ヒ保證人ノ承諾アルニ非サレハ保證ノ義務及ヒ連帶ノ義務等ノ如キ人ニ管スル保證ガランチー、ペルソナルチ移ス可カラス

第二百五十八條 前條ニ記スル保證ヲ移ス契約ハ義務ノ更改スルト

同時ニ之ヲ公正ノ證書ニ記スルニ非サレハ管係ナキ者ニ對シ其効ナカル可シ

○第五款 二箇ノ義務互ニ相殺スル事

第二百五十九條 二箇ノ義務互ニ相殺スルハ義務ヲ盡クスノ一種ニシテ義務ヲ行フ可キ者義務ヲ行ハシム可キ者トナリ義務ヲ行ハシム可キ者義務ヲ行フ可キ者トナル時ハ縱令雙方ノ者識認スルコトナシト雖モ二箇ノ義務當然互ニ相殺ス可シ

第二百六十條 二箇ノ義務中ニテ高ノ寡ナキ義務ノ高ニ充ル迄互ニ相殺ス可シ

第二百六十二條 二箇ノ義務ノ高互ニ確定シ且既ニ之ヲ行フ可キ期限ニ至リ且其義務ハ共ニ金高又ハ種類品位ノ相同シキ同質ノ品物ニ管シ並ニ同一ノ地ニテ之ヲ行フ可キモノニ非サレハ互ニ相殺ス



可カラス

第二百六十二條 義務中ノ一箇ヲ差押ユ可カラサル時又ハ金高或ハ品物ノ附託ニ據リ其義務中ノ一箇ノ生シタル時ハ二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可カラス

第二百六十三條 二箇ノ義務互ニ相殺スル場合ニ於テ數箇ノ義務中ノ一ヲ盡クスニ充テ用フルコトハ通常義務ヲ盡クス時ト同一タル可シ

第二百六十四條 若シ義務ヲ行ハシム可キ甲者己レノ權利ヲ丙者ニ讓渡シ義務ヲ行フ可キ乙者其讓渡ヲ承諾シタル時ハ乙者二箇ノ義務ノ互ニ相殺スルコトヲ述ヘテ丙者ノ權ヲ害ス可カラス唯甲者ニ對シテ其償ヲ要ムルコトヲ得ヘシ

第二百六十五條 若シ義務ヲ行フ可キ者二箇ノ義務互ニ相殺ス可キコトヲ述フルコトナク其義務ヲ行フタル時ハ保證人、連帶シテ義務ヲ行フ可キ者、其義務ヲ行フタル爲メ己レノ權利ヲ害セラレシ先取ノ權アル債主、其義務ヲ保證セシ質物ノ所有者ヨリ二箇ノ義務互ニ相殺スルコトヲ述フルヲ得ヘシ但シ義務ヲ行フタル者其義務ヲ行ヒシ時之ヲ相殺セシム可キ權利ノ己レニ存スルヲ知ラサルノ證アル時ハ格別ナリトス

第二百六十六條 義務ヲ行フ可キ甲者義務ヲ行ハシム可キ乙者ニ義務ヲ盡クス可カラサルノ差留ヲ他人ヨリ受ケ又ハ乙者ヨリ己レノ權利ヲ他人ニ移シタルノ告知ヲ受ケタル時ハ其差留又ハ告知ヨリ後ニ生シタル權利ヲ以テ二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可カラス

第二百六十七條 義務ヲ行フ可キ者ハ之ヲ行ハシム可キ者ヨリ其義務ノ保證人ニ對シ盡クス可キ義務アルヲ以テ二箇ノ義務ヲ互ニ相



殺ス可カラス

第二百六十八條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人ハ之ヲ行ハシム可キ者ヨリ其數人中ノ一人ニ對シ盡クス可キノ義務アルヲ以テ二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可カラス但シ其一人ノ部分ノミハ格別ナリトス

○第六款 權利ト義務ト渾同スル事

第二百六十九條 一人ニテ義務ヲ行フ可キ者ト之ヲ行ハシム可キ者トノ身分ヲ兼有スル時ハ權利ト義務ト渾同ス可シ

第二百七十條 權利ト義務ト渾同スル時ハ保證人ノ義務ヲ釋放ス可シ然レニ連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人ニ付テハ權利ト義務ト兼有セシ其中ノ一人ノ部分ヲ除クノ外其義務ヲ釋放ス可カラス

○第七款 期滿免除ノ權

第二百七十一條 法律上ニ定メタル期限ヲ經テ期滿免除ノ權ヲ得タ

ル時ハ義務ヲ消散セシメ義務ヲ行フ可キ者ヨリ其旨ヲ申立ル時ハ全ク其義務ヲ免除シタルモノト看做ス可シ

第二百七十二條 期滿所得ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時ヲ除棄スル原由及ヒ其期限ノ經過ヲ停止スル原由ニ付キ期滿所得ノ權ノ爲メ定メタル規則ハ義務ヲ免除スル期滿免除ノ權ニ之ヲ適用ス可シ

第二百七十三條 若シ義務ヲ行フ可キ者既ニ期滿免除ノ權ヲ得タルニ其義務ヲ行ハシム可キ者ト謀リ他ノ義務ヲ行ハシム可キ者ノ權利ヲ害スル爲メ故ラニ期滿免除ノ權ヲ拋棄シタル時ハ他ノ義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ其期滿免除ノ權ヲ申立ツルヲ得可シ

第二百七十四條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ノ一人又ハ主タル義務ヲ行フ可キ者期滿免除ノ權ヲ拋棄スルト雖モ其義務ヲ行フ可



キ他ノ者又ハ保証人ノ自己ノ權利ノ爲メ期滿免除ノ權ヲ得ルノ妨  
ケトナルコトナカル可シ

第二百七十五條 凡ソ義務ハ十五年ヲ以テ其期滿免除ノ期限ナリト  
ス但シ後ノ數條ニ記スル所ト法律上ニ別段定メタル所トハ格別ナ  
リトス

第二百七十六條 醫師ノ診察料、商人ヨリ商人ニ非サル者ニ賣拂フタ  
ル商品ノ代金、子弟ヨリ授業師ニ納ム可キ謝金、僕婢ノ雇賃ハ三百六  
十日ヲ以テ其期滿免除ノ期限ナリトス但シ右三百六十日ノ時間ニ  
同一ノ原因ニ付キ更ニ義務ノ生スルコトアルモ亦同様ナリトス

第二百七十七條 使吏及ヒ書記官ノ書類ヲ記シタルニ付キ與フ可キ  
謝金ハ其書類ヲ記シタル訴訟ノ終リシヨリ三百六十日ヲ以テ其期  
滿免除ノ期限ナリトス但シ其書類ヲ記シタルノミニテ訴訟ノ手續

ヲ爲サ、ル時ハ之ヲ記シタルヨリ三百六十日ヲ以テ期滿免除ノ期  
限ト爲ス可シ

第二百七十八條 年賦金、養老金、土地又ハ家屋ノ借賃、借金ノ利息及ヒ  
其他毎歲拂フ可ク又ハ更ニ短キ期限ヲ以テ拂フ可キ諸件ハ「アテビ  
」曆ニ從ヒ算計シタル五年ノ時間ヲ以テ期滿免除ノ期限ナリトス

第二百七十九條 三百六十日又ハ更ニ短キ期限ニテ期滿免除ノ權ヲ  
得可キ場合ト商業手形類ニ付キ商法上ニ定メタル場合トニ於テハ  
期滿免除ノ權ヲ得タリト述フル者眞ニ其義務ノ免除ヲ得タル誓ヲ  
爲スニ非レハ其義務ノ免除ヲ得可カラス

第二百八十條 寡婦、遺物相續人及ヒ此等ノ者ノ後見人ハ義務ヲ負フ  
タルコトヲ知ラサルノ誓ヲ述フ可シ

○第六章 義務ノ證及義務免除ノ證



第二百八十一條 義務ノ證ハ義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ之ヲ立ツ可シ

第二百八十二條 義務免除ノ證ハ義務ヲ行フ可キ者ヨリ之ヲ立ツ可シ

第二百八十三條 商業上ノ事件ヲ除クノ外總テノ事件ニ付キ一千<sub>レ</sub>ピアストル以上ノ金高又ハ物品ニ管シタル時或ハ價高ノ定マラサル物品ニ管シタル時ハ義務ノ證又ハ義務免除ノ證ヲ立テント爲ス者ヨリ證人又ハ思料ヲ以テ其證ヲ立ツ可カラズ但シ其者其時ノ摸樣ニ因テ右等ノ證ヲ立ツル書類ヲ得ルヲ能ハサル時ハ格別ナリトス  
第二百八十四條 前條ニ記シタル者ハ訴訟法ニ定メタル法式ヲ以テ相手方ノ問糺ス可キヲ裁判所ニ訴ヘ又ハ相手方ニ誓ヲ爲ス可キヲ要メテ相手方ノ自認ヲ得ント求ムルヲ得可キノミトス

第二百八十五條 然レモ本人ノ記シタル書類ニ因リ其義務ヲ負フタルヲ又ハ義務ノ免除ヲ得タルヲノ實ニ近キ時ハ證人又ハ思料ヲ以テ證ヲ立ツルヲ得可シ

第二百八十六條 又偶然ノ事ニ因リ證書ヲ失フタルノ確證アル時ハ前條ト同一ナリトス

第二百八十七條 義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ證書ノ正本又ハ執行ノ文詞ヲ記シタル其寫書<sub>エキスベダシチン、エキセキトワール</sub>ヲ義務ヲ行フ可キ者ニ渡シタル時ハ義務免除ノ證アリトス

第二百八十八條 然レモ義務ヲ行ハシム可キ者ハ義務ヲ免除スルヨリ更ニ他ノ原因ニ付キ義務ヲ行フ可キ者ニ證書ヲ渡シタル旨ヲ證人ヲ以テ證セシムルヲ得可シ

第二百八十九條 義務ヲ執行ヒ始メタル時ハ裁判役其時ノ摸樣ニ因



リ證人又ハ思料ヲ以テ證ヲ立ツルヲ許ルスヲ得可シ

第二百九十條 利息及ヒ年賦金ヲ拂フタル時ハ證書ニ據ラスシテ主  
タル義務ノ證ヲ立ツルヲ得可シ

第二百九十一條 書類ヲ以テ十分ナル證ト爲ス可カラサルカ如キ景  
狀アル時ハ裁判役ヨリ義務ヲ行ハシム可キ者ニ其義務ノ證ヲ立ツ  
ル爲メ誓ヲ爲スヲ命シ又ハ義務ヲ行フ可キ者ニ其義務免除ノ證ヲ  
立ツル爲メ誓ヲ爲スヲ命スルヲ得可シ

第二百九十二條 又義務ヲ行フ可キ者ト之行ハシム可キ者ト互ニ  
誓ヲ爲スヲ求ムルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ誓ヲ爲ス可キノ  
求メテ受ケタル者ヨリ相手方ニ誓ヲ反シ求ムルヲ得可シ

第二百九十三條 一方ノ者相手方ニ誓ヲ爲ス可キヲ求メタル時ハ  
其他ノ證ヲ立ツルノ方法ヲ拋棄シタルト看做ス可シ

第二百九十四條 證書ノ公正ナル時即チ相當ナル官吏ノ面前ニ於テ  
證書ヲ記シタル時ハ其官吏ノ偽証ヲ爲シタル訴アルニ至ル迄如何

ナル人ニ對スルニ其證書ヲ以テ確證ト爲ス可シ

第二百九十五條 私ノ證書ハ之ヲ記シタリト言掛ケラレシ者之ヲ記  
シタルヲナシト述フル迄又ハ之ニ姓名ヲ手署シタリト言掛ケラレ  
シ者手署シタルヲナシト述フル迄ハ雙方ノ間ニ於テ公正ノ證書ト  
同シキ證ト爲ス可カラス

第二百九十六條 私ノ證書ハ其日附ノ正カナル時ニ非サレハ管係ナ  
キ者ニ對シテ證ト爲ス可カラス

第二百九十七條 私ノ證書ノ日附ヲシテ正カナラシムルニハ其全文  
又ハ抜抄シタル文ヲ公ケノ簿冊ニ記入シテ且其證書ニ右記入ノ旨  
ヲ記載シ又ハ既ニ死去セシ人ノ認メラレタル自筆ノ書又ハ姓名ノ



手署又ハ相當ノ官吏裁判役ノ檢危アルコトヲ必要トス

第二百九十八條 証書ニ義務免除ノ旨ヲ記シタル時ハ假令義務ヲ行ハシム可キ者ノ姓名ノ手署ナシト雖モ義務免除ノ證ト爲ス可シ

第二百九十九條 執行ノ文詞ヲ記セシ寫ヲ除クノ外其他總テ公ケノ官吏ノ記セシ證書ノ寫ハ其正本ヲ差出スコト能ハサル時裁判役其寫ヲ以テ證據ト爲ス可キヤ否ヲ監定ス可シ但シ右ノ寫ハ少クモ證據ノ端緒ト爲ス可シ

第三百條 義務ヲ行フ可キ者モ之ヲ行ハシム可キ者モ以前ト同シク且原告モ被告モ以前ト同シキ時ハ既ニ終審ノ裁判ヲ經タル事ノ力佛蘭西民法第一千三百五十一條見合ニ因リ其確證アリトシ之ニ反シタル證ヲ立ツルコトヲ許サス

第三百一條 裁判所ニ於テ一方ノ者其義務ノ一部ヲ行ヒ他ノ一部ヲ

行ハサル旨ヲ自認シタル時ハ相手方ノ者其義務ノ一部ヲ行ハシメタルハ虚ニシテ他ノ一部ヲ行ハシメサルハ實ナルコトヲ述フ可カラス

第三百二條 商業上ノ事ニ付テハ賣買及ヒ其他諸般ノ契約ヲ證人及ヒ思料ニ因リ又ハ其他諸般ノ方法ニ因テ證スルコトヲ得ヘシ



○第三篇 各種ノ契約

○第一章 賣買ノ契約

○第一款 總テ賣買ノ契約

第三百三條 賣買ノ契約トハ甲ヨリ物品所有ノ權及ヒ之ヲ隨意ニ爲  
スノ權ヲ乙ニ讓リ乙ヨリ其物品ノ直打チニ當レル代價ヲ甲ニ拂フ  
可キ契約ヲ云フ

第三百四條 甲ハ賣ルコト乙ハ買フコトヲ雙方同時ニ承諾シ且其物品ト  
代價トヲ協議シタルニ非サレハ賣買ノ契約ヲ成就シタルモノナリ  
トセス

第三百五條 賣買ノ契約ハ公正ノ證書又ハ私ノ證書又ハ其他ノ書面  
ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得可シ

第三百六條 又賣買ノ契約ハ口上ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ符號ヲ以テ之



ヲ爲スヲ得可シ但シ此等ノ場合ニ於テ一方ノ者其契約ヲ爲シタル覺ナシト述フル時ハ相手方其證ヲ立ツルニ付キ法律上ニ定メタル證人ヲ以テ證ヲ立ツルノ規則ニ循フ可シ

第三百七條 賣買ノ契約ハ別段ノ約束ナク之ヲ爲スヲ得又ハ期限ヲ定メテ之ヲ爲スヲ得又ハ別段ノ約束ヲ附加シテ之ヲ爲スヲ得可シ

其約束ハ未必ノ事ノ生スル迄義務ノ執行ヲ停止ス可キモノタルヲ得可ク又ハ未必ノ事ノ生スル時ハ義務ヲ解除ス可キモノタルヲ得可シ

第三百八條 物品ヲ一纏ト爲シテ賣買スルヲ得可ク又ハ之ヲ度量シテ賣買スルヲ得可ク又ハ之ヲ試ミタル上ニテ賣買スルヲ得可シ

第三百九條 又賣主又ハ買主ノ意ニ任カセ二箇以上ノ物品中其一ヲ擇ム可キノ約束ヲ以テ賣買ヲ爲スヲ得可シ

第三百十條 賣買ノ證書ニ代價ヲ拂フ可キ期限又ハ賣買ニ付テノ別段ナル約束ヲ記セサル時ハ現金ニテ別段ノ約束ナク賣買ヲ契約セシモノト看做ス可シ但シ土地ノ習慣或ハ商業上一般ノ習慣ニ因リ默許ヲ以テ代價ヲ拂フ可キ期限ヲ定メ又ハ別段ノ約束ヲ定メタリト思料ス可キ時ハ格別ナリトス

○第二款 賣主及ヒ買主

第三百十一條 賣主及ヒ買主ハ法律上ニテ自カラ義務ヲ負ヒ得可キノ權アルヲ必要トス

第三百十二條 賣主ハ其賣ラントスル物品ヲ人ニ讓リ得可キノ權アルヲ必要トス

第三百十三條 賣主及ヒ買主ノ承諾ハ自由ニシテ且理ニ適フタルヲ



必要トス

第三百十四條 買主ハ自身ニテ物品ヲ十分ニ知得シ又ハ己レニ代テ  
檢視スルヲ任シタル名代人ヲシテ之ヲ十分ニ知得セシム得可シ

第三百十五條 物品ヲ一纏ニ爲シテ賣買スルノ約ヲ爲シ買主其一部  
分ノミヲ檢視シタル時若シ買主其全部ヲ檢視セハ之ヲ買入ル、  
ナカル可シト思料ス可キ摸樣アルニ於テハ買主其賣買ノ契約ヲ解  
除スルノ言渡ヲ得可シ然レモ其物品ヲ分別セシメ又ハ其價ヲ減セ  
シムルヲ得可カラズ若シ買主右ノ物品ヲ一旦書入質ニ爲シ又ハ  
其他ノ方法ニテ己ノ隨意ニ爲シタル上ハ前ニ記シタル契約解除ノ  
權ヲ行フ可カラズ

第三百十六條 賣買ノ契約書ニ買主其買入レントスル物品ヲ知リタ  
ル旨ヲ記スル時ハ買主其物品ヲ知ラサルニ付キ其契約ヲ取消ス可

キノ權ヲ失フ可シ但シ買主賣主ニ詭欺アルヲテ證スル時ハ格別ナ  
リトス

第三百十七條 買主ノ自カラ檢視セサル物品又ハ名代人ヲシテ檢視  
セシメサル物品ヲ賣買ス可キ契約アリト雖モ其契約書ニ右物品ノ  
何物タルヤヲ指定メ且其物品ノ重立チタル品質ヲ指定メ以テ其物  
品ヲ眞認シ得可キ時ニ非サレハ其契約ノ効ナカル可シ

第三百十八條 若シ盲人ト賣買ノ契約ヲ爲シ其盲人其物品ヲ見ルヨ  
リ他ノ方法ヲ以テ其品質ヲ知ルヲ得タル時又ハ其依頼スル名代人  
ヲシテ之ヲ檢視セシメタル時ハ其賣買契約ノ効アリトス

第三百十九條 最後ノ疾病中遺物相續人中ノ一人ニ物品ヲ賣渡ス契  
約ハ各相續人皆之ヲ確定スルニ非サレハ其効ナカル可シ

第三百二十條 若シ前條ノ場合ニ於テ遺物相續人ニ非サル者ニ物品



ヲ賣渡ス契約ヲ爲シタル時其物品ノ價賣主ノ財産三分一ノ價ニ過  
キサルニ於テ其契約ノ取消ヲ訴フ可カラス

第三百二十一條 若シ賣渡シタル物品ノ價死去シタル賣主ノ財産三  
分一ノ價ニ過クル時ハ買主其賣主ノ遺物相續人ヨリノ求メニ因リ  
或ハ賣買ノ契約ヲ廢シ或ハ死去シタル賣主ノ財産三分二ノ價ノ缺  
ケタル部分ヲ其相續人ニ渡ス可シ

第三百二十二條 前二條ノ規則ハ本國ノ法律ヲ以テ其人權ヲ規定ス  
可キ賣主ノミニ通シ用フ可シ

又前二條ノ規則ヲ以テ其物品ニ付キ不動産書入質ノ權ヲ有スル債  
主又ハ正實ニ代金ヲ出シ其物品ヲ買入レタル者ノ權利ヲ害ス可カ  
ラス

第三百二十三條 裁判役書記官使官代言人ハ其職務ヲ行フ裁判所ノ

所轄タル訴訟ヲ爲ス權ノ全部又ハ一部ヲ自カラ買受クルヲ得ス  
又他人ヲ介入セシメ之ヲ買受クルヲ得ス假令之ヲ買受クルトモ  
其効ナカル可シ

右ノ場合ニ於テハ當然其賣買契約ノ効ナクシテ何人ニ限ラス之ニ  
管係アル者ノ求ニ因リ又ハ裁判所ノ公務ヲ以テ其取消ヲ言渡ス可  
シ

第三百二十四條 後見人又ハ管財人ノ如キ法律上ノ名代人又ハ契約  
ヲ爲シテ任シタル名代人ハ其名代人タルノ職務ヲ以テ賣拂フ可キ  
物品ヲ自カラ買入ル可カラス

右ノ場合ニ於テハ賣拂ヲ爲ス本人其賣拂ノ契約ヲ確定ス可シ但シ  
之カ爲メニハ本人其契約ヲ確定スル時己レノ財産ヲ人ニ讓渡シ得  
ルノ權ヲ有スルヲ必要トス



〇第三款 賣買ス可キ物件

第三百二十五條 賣買ス可カラサル物又ハ價ヲ見積ル可カラサル物  
又ハ引渡ス可カラサル性質ノ物ノ賣買契約ハ其効ナカル可シ

第三百二十六條 特ニ定メタル物品又ハ物品ニ付テノ共通所有ノ權  
又ハ物品ニ付テノ特ニ定マリシ所有ノ權ハ之ヲ賣買スルヲ得ヘ  
シ

又種類ノミノ定マリシ物品ヲ賣買スルヲ得ヘシ

第三百二十七條 種類ノミノ定マリシ物品ヲ賣買スル契約ヲ爲ス時  
ハ其物品ノ種類互ニ相易ユルヲ得ヘク且其數其大サ其度量ノ畧  
定マリ雙方ノ理ニ適シ承諾セシテ知り得ヘキ者タルニ非サレハ其  
契約ノ効ナカル可シ

第三百二十八條 又物件所有ニ管セサル權又ハ他人ヲシテ義務ヲ行

ハシム可キ權ヲ賣買スルヲ得ヘシ

第三百二十九條 未タ結ハサル樹菓又ハ未タ生セサル穀類ヲ賣買ス  
ル契約ハ其効ナカル可シ

第三百三十條 然レモ既ニ結ヒタル樹菓又ハ既ニ生シタル穀類ノ賣  
買ヲ契約シタル時ハ其契約ノ後結ヒタル樹菓又ハ其契約ノ後生シ  
タル穀類ヲモ亦其契約中ニ包含ス可シ

第三百三十一條 現ニ生存スル人ノ遺物相續ヲ爲ス權ヲ賣買スル契  
約ハ縱令本人ノ承諾アリト雖モ其効ナカル可シ

第三百三十二條 賣主ニ屬セサル時ニ定マリシ物品ヲ賣買スル契約  
ハ其効ナカル可シ

然レモ其物品ノ眞ノ所有者其契約ヲ確定スル時ハ其契約ノ効ヲ生  
スルヲ得ヘシ



第三百三十三條 若シ賣主己レニ屬セサルヲ知リタル物品ヲ己レニ屬スルモノト爲シ賣リタル時買主ノ正實ナルニ於テハ買主其償ヲ求ムルヲ得ヘシ

第三百三十四條 若シ特ニ定メタル物品ノ所有者ニ非サル者定メタル價ヲ得テ其所有ノ權ト入額所得ノ權トヲ人ニ移ス可キヲ契約シタル時ハ總テ契約ヨリ生スル義務ノ一般ノ規則ニ循ヒ其契約ヲ處置ス可シ

第四款 賣買契約ノ効

第三百三十五條 正當ニ取結ヒタル賣買契約ノ効ハ左ノ如シ

第一 買主ト其權ニ代ル可キ遺物相續人又ハ其債主トニ其買入レタル物品又ハ權利ノ所有ノ權ヲ移ス事  
又物品ノ共通ノ部分ノミヲ買ヒタル時ハ其共通所有ノ權ノミヲ

移ス可キ事

第二 賣主ヲシテ其賣タル物品ヲ引渡サシムル事且賣主買主ニ對シ妨害ナク其物品ヲ所有スルヲ保証ス可キ事

第三 買主ヲシテ價高ヲ拂ハシムル事  
又賣買ノ契約ヲ爲シタル時ハ其時ノ模様ニ因リ買主ヲシテ其物品ヲ擔當セシムルヲアリ

第一節 所有ノ權ヲ移ス事

第三百三十六條 特ニ定メタル物品ヲ賣拂フタル時ハ假令契約書ニ其引渡ノ期限ヲ記スルト雖モ買主直チニ其所有ノ權ヲ得ヘシ  
但シ此場合ニ於テ賣主其引渡ノ前ニ家資分散ヲ爲ス時ハ買主其買ヒタル品物ヲ己レニ受取ラント求ムルノ權アリ

第三百三十七條 種類ノミヲ定メシ物品ヲ賣買シタル時ハ之ヲ引渡



シタル上ニ非サレハ其所有ノ權ヲ移ス可カラス

第三百三十八條 或ル事件ノ現ニ生スル時ハ賣買ノ契約ヲ解除ス可キノ約束ヲ以テ物品ヲ賣買シタルニ於テハ直チニ其物品所有ノ權ヲ買主ニ移ス可シ

又或事ノ現ニ生スル迄賣買ヲ停止ス可キ約束ヲ以テ賣買ノ契約ヲ爲シタル時其事ノ現ニ生スルニ於テハ其物品所有ノ權ヲ嘗テ契約ヲ爲セシ時ヨリ以來買主ニ屬シタルト看做ス可シ

第三百三十九條 前條ニ記スル二箇ノ場合ニ於テ或事ノ生スル迄ハ其權ヲ行フヲ停止ス可キ約束ヲ以テ賣主ヨリ右物品ニ付キ書入質ノ權ヲ得タル債主又ハ或事ノ生スル時ハ其權ヲ解除ス可キ約束ヲ以テ買主ヨリ右物品ニ付キ書入質ノ權ヲ得タル債主ハ其賣主ト買主トノ間ニ己レニ知ラシメス約束ヲ結ヒタルカ爲メ己レノ權ヲ害

セラル、トナカル可シ

第三百四十條 正當ノ名義アリテ且法律ニ循ヒ己レノ權利ヲ保存セシ正實ノ意アル者ニ對シテハ不動産ノ買主後篇ニ記スル規則ニ循ヒ其賣買ノ證書ヲ簿冊ニ登記シタルニ非サレハ不動産所有ノ權ヲ得タルモノトス可カラス又權利ノ買主ハ此篇ニ記スル所ニ循ヒ其賣買證書ヲ送達シテ右ノ者ノ承諾ヲ得タルニ非サレハ右ノ者ニ對シテ其權利ヲ得タルモノトス可カラス

第二節 品物ノ引渡及ヒ品物ニ付テノ保證

第一則 品物ノ引渡

第三百四十一條 品物ノ引渡トハ品物ヲ買主ニ渡シ買主ヲシテ之ヲ所有シ且妨ケナク其利益ヲ得セシムルヲ云フ

又賣主其品物ヲ買主ノ隨意ニ爲メ可キ模様ト爲シ且其旨ヲ買主ニ



知ラシメタル時ハ縱令買主現ニ之ヲ受取ラスト雖モ賣主其引渡ノ義務ヲ行フタルモノトス

第三百四十二條 品物ノ引渡方ハ其品物ノ種類ニ因テ互ニ相異ナリ故ニ不動産ヲ引渡ス可キ時其不動産家屋タルニ於テハ其鎖鑰ヲ渡シ又土地タルニ於テハ其證券ヲ渡ス可シ但シ之カ爲メニハ買主其不動産ヲ所有スルニ妨害ナキヲ必要トス

又動産ヲ引渡ス可キ時ハ現ニ其動産ヲ引渡シ又ハ之ヲ藏メタル倉庫ノ鎖鑰ヲ渡ス可シ又ハ品物ノ買主既ニ以前ヨリ其品物ヲ賣買ニ非サル名義ヲ以テ己レニ保有シタル時ハ賣主ト買主ト雙方ノ承諾ノミニテ其引渡ヲ成就シタルモノト爲ス可シ

第三百四十三條 賣買シタル權利ニ付テハ其證書ヲ渡シ又ハ賣主ヨリ買主ニ其權利ヲ行フヲ許ルシタルヲ以テ其權利ヲ引渡シタルモ

ノト爲ス可シ但シ之カ爲メニハ買主其權利ヲ行フニ効害ナキヲ必要トス

第三百四十四條 買主其約束通りノ代價ヲ拂ハス且賣主ノ承諾ナク其物品ヲ所有ト爲ス時ハ其所有ノ効ナク賣主其所有ノ權ヲ復スルヲ得ヘシ

又右ノ場合ニ於テ買主ノ其品物ヲ所有スル時間ニ其品物ノ滅盡スル時ハ買主其損失ヲ擔當ス可シ

第三百四十五條 賣買シタル品物ハ其賣買ノ時所在ノ場所ニ於テ之ヲ引渡ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第三百四十六條 若シ賣買ノ契約書ニ其品物ノ現ニ在ル場所ニ非サル場所ヲ其所在ノ地ナリト指定スル時ハ賣主買主ヨリノ要メニ應シ其品物ヲ其現ニ在ル場所ヨリ特ニ指定シタル場所ニ運送セサル



可カラス

若シ又其運送ヲ爲ス能ハス又ハ其運送ニ因リ買主ノ損失タル可キ  
遅延ヲ生スル時賣主ニ不正ノ事アルニ於テハ買主損失ノ償ヲ得テ  
賣買ノ契約ヲ取消スコトヲ得ヘシ

第三百四十七條 賣買シタル品物ノ引渡ハ契約書ニ定メタル期日ニ  
之ヲ爲ス可シ若シ契約書ニ其引渡ノ期日ヲ定メサル時ハ賣買ノ時  
直チニ之ヲ引渡ス可シ但シ習慣ニ於テ其引渡期日ノ定マリタル場  
合ハ格別ナリトス

第三百四十八條 買主賣主ニ品物ノ引渡ヲ要メタル後賣主猶之ヲ引  
渡サ、ル時ハ買主其賣買ノ契約ヲ取消シ又ハ其品物ヲ己レノ所有  
ト爲スコトヲ得ヘシ但シ此場合ニ於テ賣主ノ所爲ニ因リ其引渡ヲ遅  
延シタル時ハ買主其損失ノ償ヲ得ント要ムルコトヲ得ヘシ

第三百四十九條 賣主ハ契約シタル代價ノ全部又ハ一部ヲ現金ニテ  
受取ル迄其賣リタル品物ヲ引留メ置クノ權アリ但シ買主ヨリ保證  
品ヲ出シ又ハ保證人ヲ立ツル時ト雖モ亦之ニ同シ然レモ其賣買ノ  
契約ヲ爲シタル後代價ヲ拂フニ付テノ猶豫ノ期限ヲ定メタル時ハ  
格別ナリトス

第三百五十條 賣主己レノ意ヲ以テ買主ニ物品ヲ引渡シタル時ハ縱  
令其代價ヲ受取ラスト雖モ其引渡シタル物品ヲ取戻ス可カラス但  
シ此場合ニ於テハ買主賣買ノ契約ノ如ク執行ハサルニ付キ賣主其  
契約ヲ取消スノ權アリ

第三百五十一條 賣主ヨリ代價ノ全部又ハ一部ヲ受取ル爲メ買主ニ  
催促書ヲ送リタル時ハ賣主品物ノ引渡ニ付キ故障ヲ述フ可カラス  
第三百五十二條 若シ買主代價ヲ拂フ爲メ立テタル保證高ヲ減シタ



ル時又ハ其産屋衰敗シテ賣主其代價ヲ得ヘカラサルノ恐アル時ハ  
縱令其代價ヲ拂フ可キ期限ニ至ラサル前ト雖モ賣主其品物ヲ己レ  
ニ引留ムルヲ得ヘシ但シ買主ヨリ賣主ニ保證ヲ立テタル時ハ格  
別ナリトス

第三百五十三條 若シ買主ノ家資分散ヲ爲シタル時ハ賣主商法ノ規  
則ニ循ヒ其賣タル物品ヲ引留メ又ハ引渡シタル物品ヲ取戻スノ權  
ヲ行フ可シ

第三百五十四條 引渡ノ費用引渡ノ地ニ運送スル費用、度量ノ費用等  
ハ賣主之ヲ擔當ス可シ

第三百五十五條 引渡ノ地ヨリ他所ニ運送スル費用並ニ代價ヲ拂フ  
費用ハ買主之ヲ擔當ス可シ  
又契約ノ費用モ買主之ヲ擔當ス可シ

但シ商業ノ習慣ニ反シタル定メアル時ハ格別ナリトス

第三百五十六條 品物ヲ引渡ス時ハ其主品ト品物ノ種類及ヒ雙方ノ  
意見ニ因リ其主品ノ缺ク可カラサル附従品ナリト看做ス可キ諸件  
トヲ引渡ス可シ

第三百五十七條 後ノ數條ニ記列シタル場合ニ於テ契約書中ニ別段  
約定セシ事アラサル時ハ左ノ規則ヲ遵守ス可シ但シ各地ノ習慣ハ  
例外ナリトス

第三百五十八條 乳汁ヲ生スル牝牛ヲ賣リタル時ハ其乳汁ヲ飲マシ  
ムル牛仔ヲモ亦包含ス可シ

第三百五十九條 園庭ヲ賣リタル時ハ園庭内ニ植エタル樹木ヲモ亦  
包含ス可シ但シ既ニ成熟シタル樹菓並ニ盆ニ栽エ又ハ培樹場中ニ  
アル小樹ハ包含スルヲナシ



第三百六十條 土地ヲ賣ルト雖モ穀艸ヲ包含ス可カラス

第三百六十一條 家屋ヲ賣ル時ハ其家屋ニ附着シタル品物ヲ包含ス可シ但シ破毀セス除去スルヲ得ヘキ動産ハ包含ス可カラス  
又此事ニ付テハ其地ノ習慣ニ循フ可シ

第三百六十二條 賣主ハ契約書ニ指定シタル如キ分量目方積ノ物品ヲ引渡ス可シ

第三百六十三條 其種類互ニ相易ユルヲ得ヘキ物品ヲ一纏ニ爲シ賣買シタル場合ニ於テ其物品ノ分量ヲ定メ且其分量何程ニ付キ價幾許タルヲ定メシ時其現ニ在ル所ノ分量其定メタル分量ニ足ラサルニ於テハ買主其賣買ノ契約ヲ取消シ又ハ其不足ニ准シ價ヲ減シテ其契約ノ如ク執行フ自由ナリトス

第三百六十四條 若シ現ニ在ル所ノ分量其定メタル分量ニ過クル時

ハ其餘分ヲ賣主ニ屬セシム可シ

第三百六十五條 若シ度量シテ算計ス可キ物品ヲ賣買シ其物品ヲ分ツニ於テハ之ヲ破毀ス可キ時賣買契約書ニ詳カニ其度量ヲ指定シ且其度量何程ニ付キ價幾許タルヲ指定シタルニ於テハ買主其賣買契約書ヲ取消シ又ハ其契約書ヲ保チ置キ現ニアル所ノ度量ニ准セシ價ヲ拂フテ其物品ヲ引取ル自由ナリトス  
若シ右ノ場合ニ於テ契約書ニ物品ヲ一纏ニ爲シタル價ノミヲ指定シタル時ハ買主其契約書ヲ取消シ又ハ契約シタル價ニテ其物品ヲ引取ル自由ナリトス

第三百六十六條 前數條ニ記シタル場合ニ於テ其錯誤契約書ニ指定シタル價ノ二十分一以上タル時ニ非サレハ買主其契約書ヲ取消ス可カラス



第三百六十七條 賣買ノ契約書ヲ取消ス可キ時賣主既ニ代價ヲ受取タルニ於テハ其代價ト契約ノ費用並ニ買主ノ正當ニ出シタル費用トヲ還ス可シ

第三百六十八條 買主別段ノ約束ヲ定メス物品ヲ己レニ引取シ後之ヲ書入質ニ爲シタルニ因リ又ハ其他ノ方法ニ因リ其物品ノ錯誤又ハ其物品ノ品質ヲ知リタル時ハ買主其賣買ノ契約書ヲ取消ス可キノ權ナシ

第三百六十九條 買主ノ賣買契約ヲ取消サントスル訴又ハ代價ヲ減セントスル訴並ニ賣主ノ増代價ヲ得ントスル訴ハ其賣買契約ノ日ヨリ一年ヲ以テ期滿免除ノ期限ナリトス

第三百七十條 賣主ノ過失又ハ懈怠ノ有無ヲ問ハス物品ヲ引渡サ、ル前ニ若シ其物品ノ滅盡シタル時ハ賣買ノ契約ヲ解除シテ其代價

ヲ還ス可シ但シ買主賣主ヨリ物品ヲ引取ル可キノ催促書ヲ受ケ又ハ此類ノ書面ヲ受ケテ猶之ヲ引取ラス又ハ契約書ニ其物品ヲ引取ル可キ期限ヲ定メ其期限ニ至リ猶之ヲ引取ラサル時ハ格別ナリトス

第三百七十一條 買主物品ヲ引取ラサル前ニ其物品卑惡ニ至リ其價ノ減シ若シ賣買ノ契約ヲ爲ス前ニ其價ノ減シタル時ハ初メヨリ其賣買ノ契約ヲ爲スコトナカル可シト思料ス可キニ於テハ買主其契約ヲ取消シ又ハ約束シタル價ニテ其契約ノ如ク執行フコト自由ナリトス但シ買主其物品ヲ書入質ニ爲スコト承諾シタル時ハ格別ナリトス

第三百七十二條 若シ前二條ノ場合ニ於テ買主ノ過失ニ因リ物品ヲ滅盡セシメ又ハ其價ヲ減セシメタル時ハ買主其代價ノ全部ヲ拂ハ



サルヲ得ス若シ又賣主ニ其過失アル時買主其賣買ノ契約ヲ取消サ  
ント欲スルニ於テハ賣主其損失ノ償ヲ擔當シ又買主其賣買ノ契約  
ヲ保ダント欲スルニ於テハ賣主其價ヲ減ス可シ

第二則 品物ニ付テノ保証

第一種 賣買ニ管係ナキ者ヨリ物品ヲ取戻サント訴フ  
ルコトナキ旨ヲ賣主ノ買主ニ保証スル事

第三百七十三條 物品ノ賣主ハ已レノ所有物ナリト爲シ賣渡ス物品  
ニ付キ其賣買ノ時ニ當リ其物品ノ物權ヲ有スルト稱スル者ヨリ買  
主ノ權ヲ妨害スルコトナカル可キ旨ヲ買主ニ保証ス可ク又引渡ノ式  
ヲ行ヒ所有ノ權ヲ移ス可キ物品ニ付テハ其引渡ノ時ニ當リ其物品  
ノ物權ヲ有スルト稱スル者ヨリ買主ノ權ヲ妨害スルコトナカル可キ  
旨ヲ買主ニ保証ス可シ但シ此事ニ付テハ別段契約ヲ爲スニ及ハス

○又右賣買ノ時ヨリ後又ハ引渡ノ時ヨリ後ニ賣主ヨリ右物權ヲ得  
タル者アリト雖ヒ賣主買主ニ對シテ全上ノ保証ヲ爲ス可シ

第三百七十四條 賣主ハ買主ノ其物品ヲ有スルニ付キ他人ヨリ妨害  
ヲ受クルナキヲ保証セサルノ契約ヲ結フコトヲ得可シ○然レモ意味  
ノ泛キ文詞ヲ以テ其契約ヲ爲シタルニ於テハ後ニ買主其物品所有  
ノ權ヲ奪ハル、コトアル時賣主唯其損失ノ償ヲ爲ス可キ義務ヲ免ル  
、ノミトシ代價ヲ還ス可キ義務ヲ免ル可カラス

第三百七十五條 賣主買主ノ其物品ヲ有スルニ付キ他人ヨリ妨害ヲ  
受クルナキヲ保証セサル契約ヲ爲シタル時其代價ヲ還ス可キ義務  
ヲ免ル、ニハ買主其賣買ヲ爲セシ時其物品所有ノ權ヲ奪ハル可キ  
ノ原由アルヲ知リタルノ證アリ又ハ買主其物品ヲ買入ル、ニ付テ  
ハ何事ニ因ラス己レニ擔當ス可キ旨ヲ述ヘタルノ證アルコトヲ必要



トス

第三百七十六條 若シ買主ノ所有ト爲セシ物品ヲ己レニ取戻サント  
訴フル者賣主ヨリ其權ヲ授リ得タルニ於テハ縱令賣主買主ノ其物  
品ヲ有スルニ付キ他人ヨリ妨害ヲ受クルナキヲ保證セサル契約ヲ  
爲シタルト雖モ其契約ノ効ナカル可シ

第三百七十七條 賣主ノ其物品ヲ有スルニ付キ他人ヨリ妨害ヲ受ク  
ルナキヲ保證シタル時買主其所有ノ權ヲ奪ハル、ニ於テハ賣主ヨ  
リ其損失ノ償ヲ爲シ且其代價ヲ還ス可シ

第三百七十八條 其損失ノ償ハ契約ヲ爲ス費用其契約ヨリ生スル費  
用買主ノ其買入レタル物品ニ付キ出シタル費用、他人ヨリ其物品所  
有ノ權ヲ己レニ取還サント爲ス訴訟ニ付テノ費用、賣主ヲ其保證人  
ト爲シテ呼出ス費用及ヒ其他總テ買主ノ受ケタル損失又ハ其失フ

タル當然ノ利益ヲ包含ス可シ

第三百七十九條 賣買シタル物品ノ其賣買ノ後直打ノ減シタル時ト

雖モ其理由ノ如何ヲ問ハス其代價ノ全部ヲ還サ、ル可カラス

第三百八十條 又其賣買シタル物品ノ其賣買ノ後直打ノ増シタル時

ハ其代價ノ上ニ直打ノ増シタル高チ損失ノ償高中ニ包含ス可シ

第三百八十一條 賣主ハ買主ノ其物品ニ付キ出シタル有益ノ費用ヲ償フ可シ但シ

其物品ニ付キ所有ノ權ヲ取還シタル者其費用ヲ償フ可キ時ハ格別ナリトス

第三百八十二條 若シ賣主ノ不正ナル時ハ買主ノ其物品ニ付キ出シ

タル奢侈ノ費用ヲモ亦償フ可シ

第三百八十三條 若シ買主其買入レタル物品ノ一部ノ所有ノ權ヲ奪

ハル、時又ハ其買入レタル物品ニ付キ賣買ノ契約前ヨリ目ニ觸レ  
サル土地ノ義務アリテ賣主其義務アルコトヲ告知セサル時買主其物



品ノ一部ヲ奪ハレ又ハ其負フタル土地ノ義務頗ル重大ニシテ若シ  
買主初メヨリ之ヲ知ラハ其物品ヲ買入ル、トナカル可シト思料ス  
可キニ於テハ法律上ニテ其物品ノ一部ヲ奪ハレ又ハ土地ノ義務ヲ  
負フタルヲ以テ品物ノ全部ヲ奪ハレタルト同視ス可シ

第三百八十四條 前條ノ場合ニ於テハ買主ノ隨意ニテ賣買ノ契約ヲ  
保テ置ク<sub>ト</sub>ヲ得可シ然レモ買主ハ書入質ノ權ヲ有スル債主ノ權利  
ヲ害シ其賣買ノ契約ヲ取消ス可カラス

第三百八十五條 若シ買主ノ賣買契約ヲ保テ置ク時又ハ物品ノ一部  
ヲ奪ハレ或ハ土地ノ義務ヲ負フタルト雖モ之レカ爲メ賣買契約ノ  
取消ヲ允許スルニ足ラサル時ハ買主其所有ノ權ヲ奪ハレタル時ノ  
其物品ノ實價ニ准シ其奪ハレシ一部ノ代價ヲ賣主ヨリ取還サント  
求メ又土地ノ義務ヲ負フタル時ハ裁判所ヨリ言渡シタル損失ノ償

ヲ賣主ヨリ得ント求ムル<sub>ト</sub>ヲ得可シ

第二種 賣買シタル物品ニ目ニ觸レサル不良ノ所ナ  
キ旨ヲ賣主ノ買主ニ保證スル事

第三百八十六條 賣主ハ其賣リタル物品ニ買主ノ計算セシ直打ヲ減  
セシム可キ不良ノ所ナキ旨ヲ保證シ又其物品ヲ當然ノ用法ニ供ス  
ル<sub>ト</sub>能ハサラシム可キ不良ノ所ナキ旨ヲ保證ス可シ

第三百八十七條 物品ヲ其當然ノ用法ニ供スル<sub>ト</sub>能ハサラシム可キ  
不良ノ所アル時又ハ物品ノ直打多分ニ減シ若シ買主初メヨリ之ヲ  
知ラハ其物品ヲ買入ル、トナカル可キヲ思料ス可キ時ハ買主書入  
質ノ權ヲ有スル債主ノ權利ヲ害セサル様其賣買ノ契約ヲ取消シ又  
ハ減價ヲ求ムル<sub>ト</sub>自由ナリトス但シ賣主其不良ノ所アルヲ知テ之  
ヲ賣リタルノ證アル時ハ損失ノ償ヲモ亦出サシム可シ



第三百八十八條 賣主其不良ノ所アルヲ知ラサル時ハ買主其賣買ノ契約ヲ解除シテ其契約ニ付テノ費用ヲ還サシメ又ハ協議シタル價ニテ其物品ヲ保チ置ク自由ナリトス

第三百八十九條 若シ特ニ定メタル數箇ノ物品ヲ賣買シタル時買主其物品引取ノ前ニ其數箇中ノ一部ノミニ付キ不良ノ所アルヲ見出シ其賣買ノ契約ヲ取消ス可キ權アル時ハ買主其全部ニ付キ其契約ヲ取消サ、ルヲ得ス

第三百九十條 若シ買主其物品ヲ引取リタル後ニ不良ノ所アルヲ見出シタル時ハ買主其不良ナル物品ノミニ付キ賣買ノ契約ヲ取消ス可キ得可シ但シ其物品ヲ他ノ物品ト分チ損害ヲ生スル時ハ格別ナリトス

第三百九十一條 若シ前條ノ場合ニ於テ其種類互ニ相易ユルヲ得可

キ物品ニ付テハ買主其引取ノ後ト雖モ其物品ノ一部ノミニ付キ賣買ノ契約ヲ取消ス可キ得ヘシ

第三百九十二條 目ニ觸レサル不良ノ所アリト雖モ之レカ爲メ賣買ヲ妨クルニ至ラサル時ハ買主其不良ナルニ准シ其價ヲ減セシム可キノ權ヲ有スルノミトス但シ其減價ハ評價人ノ定ムル所ニ從フ可シ

第三百九十三條 其減價ヲ計ルニハ不良ナラサル物品ノ眞ノ直打トヲ比較シ其鈞合ヲ契約シタル價ニ照合ハス可シ

第三百九十四條 目ニ觸ル、不良ノ所及ヒ買主ノ知り得タル不良ノ所ハ賣主之ヲ保証スルニ及ハス

第三百九十五條 又賣主目ニ觸レサル不良ノ所アリト之ヲ保証セサルヲ契約シタル時ハ其保証ノ義務ナシトス但シ賣主自カラ其不



其ノ所アルヲ知リタルノ証アル時ハ格別ナリトス

第三百九十六條 賣主ヲシテ目ニ觸レサル不良ノ所アルノ責ニ任セシムルニハ其不良ノ所舊キモノタル可シ

第三百九十七條 特ニ定メタル物品ニ付テハ賣買ノ時ヨリ在來ノ不良ナル所ヲ指シ舊キモノト云ヒ又特ニ定メサル物品ニ付テハ引渡ノ時ヨリ在來ノ不良ナル所ヲ指シ舊キモノト云フ

第三百九十八條 若シ特ニ定メタル物品ニ付キ舊キ不良ノ所アリテ其賣買ノ後更ニ新ナル不良ノ所生シタル時又特ニ定メサル物品ニ付キ舊キ不良ノ所アリテ其引渡ノ後更ニ新ナル不良ノ所生シタル時又ハ買主或ハ其他ノ者舊キ不良ノ所アル物品ヲ引取リタル後其模様ヲ變易シタル時ハ買主其賣買ノ契約ヲ取消ス可カラス但シ新ナル不良ノ所消滅シ又ハ賣主新ナル不良ノ所アル儘ニテ其物品ヲ

取還ス可キヲ承諾シタル時ハ格別ナリトス

買主ハ右ノ場合ニ於テ減價ヲ求ムルヲ得可ク其減價ハ第三百九十三條ノ規則ニ循ヒ之ヲ計ル可シト雖モ新ナル不良ノ所又ハ模様ノ變易ヲ其算計中ニ加フ可カラス

第三百九十九條 若シ舊キ不良ノ所アルニ因リ物品ノ減盡シタル時ハ賣主其損失ヲ擔當シ其時ノ模様ニ因リ前ニ記シタル如ク償還及ヒ損失ノ償ヲ爲ス可シ

又舊キ不良ノ所アル物品新ナル不良ノ所生シタルニ因リ又ハ偶然ノ事起リタルニ因リ全ク減盡シタル時モ賣主其損失ヲ擔當ス可シ但シ之レカ爲メニハ舊キ不良ノ所アル證アリテ且減價ヲ爲ス可キ時ハ其減價ヲ計リ得可キヲ必要トス

第四百條 目ニ觸レサル不良ノ所アルニ付テノ訴訟ハ其不良ノ所ア



ルヲ見出シタル時ヨリ八日内ニ之ヲ爲ス可シ若シ其期限内ニ之ヲ爲サ、ル時ハ訴ヲ爲スノ權ヲ失フ可シ

第四百一條 買主其物品ニ不良ノ所アルヲ見出シタル後之ヲ己レノ隨意ニ爲ス所爲ヲ行フタル時ハ其不良ノ所アルニ付テノ訴訟ヲ爲ス權ヲ失フ可シ

第四百二條 商品ノ減量ニ付テハ商業ノ習慣ニ從フ可シ

第四百三條 裁判所ノ命又ハ行政官ノ命ニテ物品所在ノ場所ニ於テ之ヲ糶賣ニ爲シタル時又ハ物品ヲ檢視シ得可キ場合ニ於テ之ヲ糶賣ニ爲シタル時ハ其物品ニ目ニ觸レサル不良ノ所アルヲ以テ訴訟ヲ爲ス可カラズ

第三節 代價ヲ拂フ事

第四百四條 買主ハ契約書ニ定メタル期限ト場所トニ於テ其約束シ

タル通り代價ヲ拂フ可シ

第四百五條 別段ノ契約アラサル時ハ物品引渡ノ場所ニ於テ現金ニテ代價ヲ拂フ可シ

第四百六條 若シ代價ヲ拂フニ付テノ猶豫ノ期限アル時ハ買主ノ住所ニ於テ代價ヲ拂フ可シ

第四百七條 然レモ此等ノ事ニ付テハ其地ノ習慣及ヒ商業ノ習慣ニ從フ可シ

第四百八條 代價ヲ拂フ可キ期ニ至リ買主之ヲ拂フ可キ催促ヲ受ケシ時ヨリ後ニ非サレハ其代價ニ付テノ利息ヲ拂フコトナル可シ但シ別段ノ契約アル時ハ例外ナリトス

第四百九條 買主ハ其賣買前ニ得タル權ヲ有スル者又ハ賣主ヨリ權ヲ得タル者ノ爲メ其買入レタル物品ヲ有スルニ妨害ヲ受ケシ時又



ハ他人ノ爲メ其買入レシ物品ヲ有スルニ妨害ヲ受クルノ虞慮アル時ハ其妨害ノ消散シ又ハ其虞慮ノ消除スルニ至ル迄其代價ヲ己レニ引留メ置クヲ得可シ但シ別段ノ契約アル時ハ例外ナリトス

第四百十條 然レモ賣主ハ前條ノ場合ニ於テ保證人ヲ立テ代價ヲ得ント要ムルヲ得可シ

第四百十一條 若シ買主契約シタル期日ニ至リ代價ヲ拂ハサル時ハ賣主書入質ノ權アル債主ノ權利ヲ害セサル様其賣買ノ契約ヲ解除スルヲ要シ又ハ買主ヲシテ其代價ヲ拂ハシム可キ裁判言渡ヲ得ルヲ自由ナリトス

第四百十二條 裁判所ニ於テハ至重ナル道理アル時買主ニ代價ヲ拂フニ付キ相當ノ猶豫ヲ許ルスヲ得可シ但シ別段ノ道理アル時ハ其賣買シタル物品ヲ他人ニ附託ス可キヲ言渡ス可シ

第四百十三條 一度猶豫ヲ許ルシタル時ハ更ニ猶豫ヲ許ルス可カラズ

第四百十四條 若シ買主代價ヲ拂ハサル時ハ當然賣買ノ契約ヲ解除ス可キ契約アルニ於テハ買主其代價ヲ拂ハサル時裁判所ヨリ其買主ニ猶豫ヲ許ス可カラズ且買主賣主ヨリ代價ヲ拂フ可キノ催促書ヲ受ケ猶之ヲ拂ハサルニ於テハ其賣買ノ契約ヲ解除ス可シ但シ其契約書ニ右催促書ヲ送ラスシテ其契約ヲ解除ス可キヲ定メタル時ハ格別ナリトス

第四百十五條 前數條ノ場合ニ於テハ管係ナキ者ニ對シ不動産賣買ノ契約ヲ解除セシ効ヲ以テ其不動産ニ付キ書入質ノ權ヲ有スル債主ノ權利ヲ害ス可カラズ

第四百十六條 商品及ヒ動産ノ賣買ニ付キ代價ヲ拂ヒ及ヒ物品ヲ引渡ス可キ限期ヲ契約シタル時其期限ニ至リテ其代價ヲ拂ハサルニ於テハ別段催促書ヲ送ルニ及ハス當然賣買ノ契約ヲ解除ス可シ